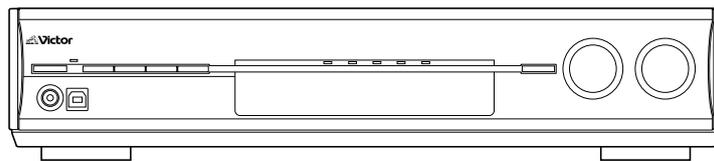
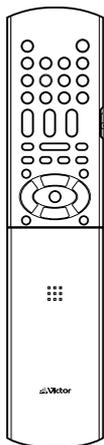
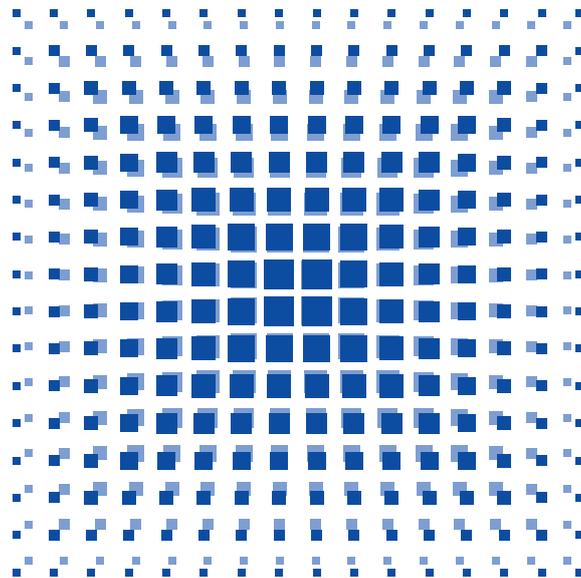
取扱説明書

AUDIO/VIDEO コントロールアンプ

型名 **AX-D311**

Audio/Video Control Amplifier
AX-D311

dts 96/24 ES NEO:6

AV COMPU LINK

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4～ 6ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1581-001A

はじめに

本機の特長

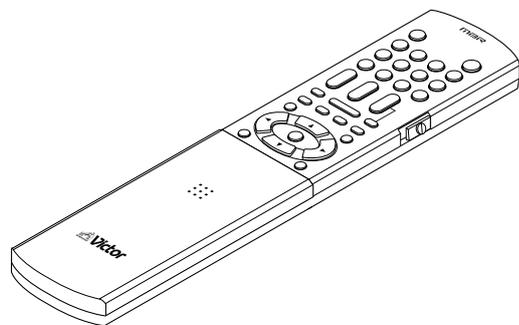
■ 高音質デジタルアンプ「DEUS」を搭載

デジタルパワーアンプの「小型」「軽量」「高効率」という特長を活かしながら、アンプ内で生成されたデジタル信号とアナログ信号それぞれをフィードバックする「ハイブリッド･フィードバック」技術により、高音質なオーディオ特性を実現させました。
高音質デジタルパワーアンプ固有の、デジタル信号処理技術のみでは解決できない問題点をアナログ信号処理技術を加えることによって解決し、これにコア技術を加え、長年にわたり培ってきたハイエンド･オーディオアンプ設計技術を応用しました。
このデジタルアンプの名称を、当社の普遍的な高音質サウンドに対する姿勢を表現した言葉の頭文字を取り「DEUS（Digital Emotional Universal Sound）」と命名しました。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDSPモード

世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場空間を、最新DSPチップの高速デジタル処理により再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン(RM-SAXD311)(1個)

単3形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

- このほかに、取扱説明書(本書)や保証書が添付されています。

本機の置き場所について

故障などを防止するため、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこりの多いところ
- 風通しの悪い狭いところ
- バランスの悪い不安定なところ
- 直射日光が当たるところ
- 熱器具の近く
- 極端に寒いところ
- 寒暖の差が激しいところ
  本機の使用環境温度は5˚C〜35˚Cです。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となったりします。
- 磁気を発生するところ
- OA機器やけい光灯のすぐそば
- 振動の激しいところ

本体のお手入れ

パネル操作面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。
汚れがひどいときは、水で布をしめらせるか、中性洗剤を少し布に付けてふき、あとで**からぶき**してください。
シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げを損なうおそれがあります。

■ 音楽を聞くときのエチケット

音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

お使いになる前に　ページ

ふだんの使いかた　ページ

調節・設定する　ページ

サラウンド　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

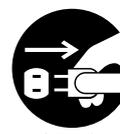
行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜きます。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

接触禁止

感電の原因となります。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

禁止

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

⚠警告

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

電池は放置しない。

電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災·感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm 以上離す。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm 以上、背面から10cm 以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

禁止

次のような所に設置すると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多いところ

- 直射日光の当たるところや、熱器具の近くなど高温になるところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるところ
- 不安定なところ
- 振動の激しいところ

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

⚠注意

本機の上に重い物を置かない。
テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。
電源が「切」でも、本機にはわずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。
接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

はじめから音量を上げすぎない。
突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

一般的指示

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。
電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。
電源が「切」でも、本機にはわずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。
内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

一般的指示

電池の取り扱いに注意する。
電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災･けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

禁止

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

「JIS C 61000ー3ー2 適合品」

JIS C 61000ー3ー2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第3ー2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計･製造した製品です。

各部の名前 —(　)内のページに説明があります。—

リモコン

（フタを開けたところ）

❶ 消音ボタン（➡ ***22*** ページ）

❷ 電源ボタン（➡ ***20***、***49***～***51*** ページ）
- ⏻/I アンプボタン
- DVR/DVD ⏻/Iボタン
- VTR ⏻/Iボタン
- CS/CATV ⏻/Iボタン
- TV ⏻/Iボタン

❸ ソース（音源）機器選択ボタン（➡ ***20*** ページ）
- DVR/DVDボタン
- VTRボタン
- DBSボタン
- TVボタン
- USBボタン

❹ テレビ音量（＋/－）ボタン（➡ ***49***、***50*** ページ）

❺ チャンネル（＋/－）ボタン（➡ ***49***～***51*** ページ）

❻ DVD/ビデオデッキ操作ボタン（➡ ***49***～***51*** ページ）
- ► （再生）ボタン
- ►►I（次スキップ）ボタンとI◄◄（前スキップ）ボタン
- ►►（早送り）ボタンと◄◄（巻戻し）ボタン
- ■ （停止）ボタン
- II （一時停止）ボタン

❼ DVD操作ボタン（➡ ***49***、***51*** ページ）
- トップメニューボタン
- メニューボタン
- カーソル（▲/▼/►/◄）ボタン
- 決定ボタン

❽ ディマーボタン（➡ ***22*** ページ）

❾ センタートーンボタン（➡ ***47*** ページ）

❿ デジタルイコライザー調節ボタン（➡ ***46*** ページ）
- D.EQ（デジタルイコライザー）周波数ボタン
- D.EQレベル（＋/－）ボタン

⓫ バスブーストボタン（➡ ***46*** ページ）

⓬ スピーカー出力調節ボタン（➡ ***45*** ページ）
- フロント-左（＋/－）ボタン
- フロント-右（＋/－）ボタン
- センター（＋/－）ボタン
- サブウーハー（＋/－）ボタン
- サラウンド-左（＋/－）ボタン
- サラウンド-右（＋/－）ボタン
- サラウンドバック-左（＋/－）ボタン
- サラウンドバック-右（＋/－）ボタン

⓭ テレビ/ビデオボタン（➡ ***49***、***50*** ページ）

⓮ サラウンド（▲/▼）ボタン（➡ ***42*** ページ）

⓯ モード切換スイッチ（➡ ***49***、***51*** ページ）

⓰ アンプ主音量（＋/－）ボタン（➡ ***20*** ページ）

⓱ ミッドナイトボタン（➡ ***47*** ページ）

⓲ 数字ボタン（➡ ***49***～***51*** ページ）
- 1～10、0、＋10ボタン
- 11、12/選局ボタン

⓳ アナログ/デジタルボタン（➡ ***23*** ページ）

⓴ エフェクトボタン（➡ ***46*** ページ）

㉑ スリープボタン（➡ ***22*** ページ）

㉒ テストトーンボタン（➡ ***45*** ページ）

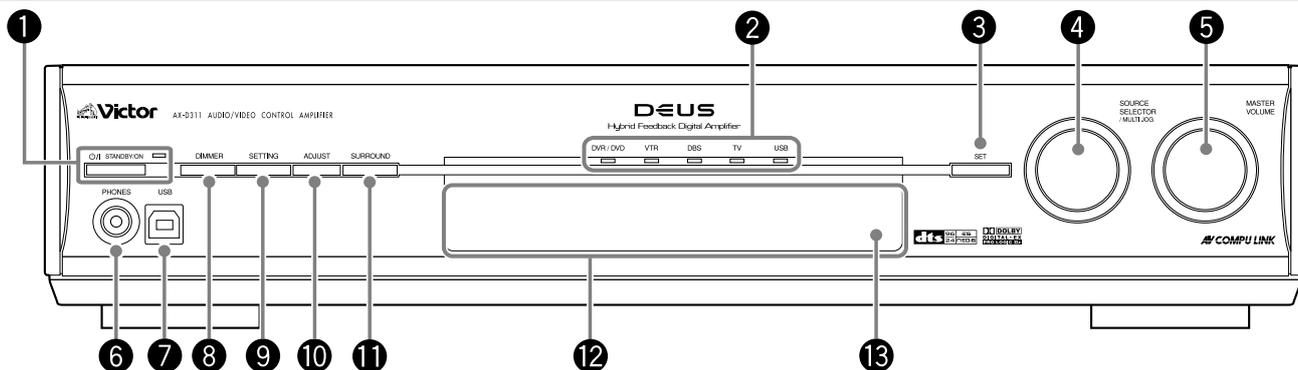
フタの開け方

上図の❾～⓬および⓲～㉒の各ボタンは、フタの中にあります。

フタの中央部を押して、下へスライドさせる

各部の名前(つづき)—( )内のページに説明があります。—

本体

前面

❶ ⏻/I STANDBY/ONボタンとスタンバイランプ
(➡ ***21*** ページ)
電源を「入」⟷「切」するとき押します。スタンバイランプは電源が「切」のとき点灯し、「入」にすると消灯します。

❷ ソース(音源)ランプ(➡ ***21*** ページ)
現在選ばれているソース(音源)のランプが点灯します。
DVR/DVD、VTR、DBS、TV、USB

❸ SETボタン(➡ ***24***、***26***、***34*** ページ)

❹ SOURCE SELECTOR/MULTI JOG
(➡ ***21***、***24***、***26***、***34***、***42*** ページ)

❺ MASTER VOLUME(➡ ***21*** ページ)
主音量を調節します。

❻ PHONES端子(➡ ***21*** ページ)
ヘッドホンを差し込みます。

❼ USB入力端子(➡ ***19*** ページ)
USB出力端子のあるパソコンを接続します。

❽ DIMMERボタン(➡ ***22*** ページ)
表示窓とイルミネーションランプの明るさを変えるとき使います。

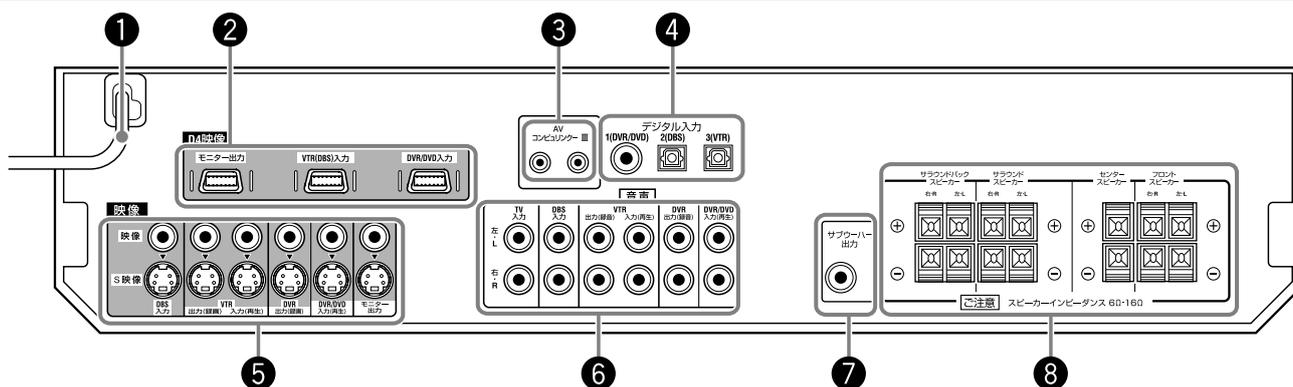
❾ SETTINGボタン(➡ ***24***、***26*** ページ)
スピーカーの設定など詳細な設定をするとき使います。

❿ ADJUSTボタン(➡ ***34*** ページ)
音量･音質を調節するとき使います。

⓫ SURROUNDボタン(➡ ***42*** ページ)
サラウンドモード、DSPモードを選ぶとき使います。

⓬ 表示窓(➡ ***9*** ページ)

⓭ リモコン受光部(➡ ***18*** ページ)

背面

❶ 電源コード(➡ ***18*** ページ)
家庭用のコンセント(交流 100V)に接続します。

❷ D4映像入出力端子(➡ ***13***、***15***～***17*** ページ)
入力端子: VTR(DBS)入力、DVR/DVD入力
出力端子: モニター出力

❸ AVコンピュリンク－Ⅲ端子(➡ ***48*** ページ)
他のビクター製ビデオ機器のAVコンピュリンク端子と接続します。

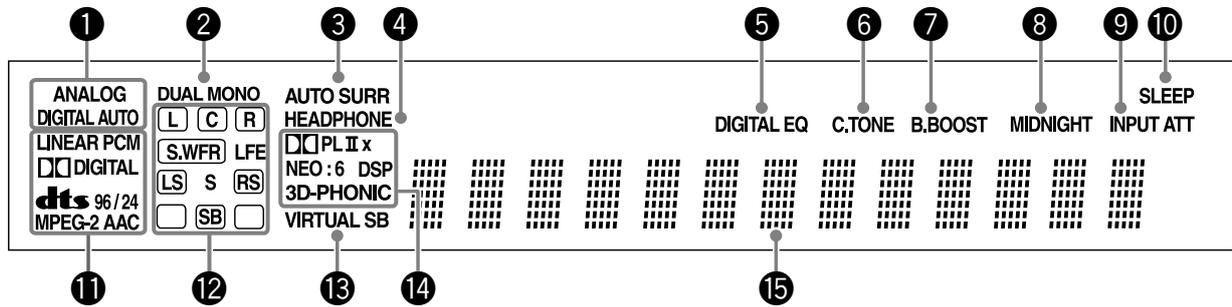
❹ デジタル入力端子(➡ ***12***、***14***、***16***、***17*** ページ)
デジタル音声出力端子のある機器を接続します。
同軸デジタル入力端子 : 1(DVR/DVD)
光デジタル入力端子 : 2(DBS)、3(VTR)

❺ 映像/S映像入出力端子(➡ ***13***、***15***～***17*** ページ)
入力端子: DBS入力、VTR入力(再生)、DVR/DVD入力(再生)
出力端子: VTR出力(録画)、DVR出力(録画)、モニター出力

❻ 音声入出力端子(➡ ***12***、***14***、***16***、***17*** ページ)
入力端子: TV入力、DBS入力、VTR入力(再生)、DVR/DVD入力(再生)
出力端子: VTR出力(録音)、DVR出力(録音)

❼ サブウーハー出力端子(➡ ***11*** ページ)
アンプ内蔵サブウーハーを接続します。

❽ スピーカー端子(➡ ***11*** ページ)
スピーカーを接続します。

表示窓

❶ アナログ/デジタル音声表示(➡ ***23*** ページ)

❷ DUAL MONO(デュアル モノ)表示(➡ ***39*** ページ)
デュアルモノ信号を再生すると点灯します。

❸ AUTO SURR(オート サラウンド)表示(➡ ***42*** ページ)
オートサラウンドを使っているとき点灯します。

❹ HEADPHONE(ヘッドホン)表示(➡ ***21***、***42*** ページ)
ヘッドホンを使っているとき点灯します。

❺ DIGITAL EQ(デジタル)表示(➡ ***35***、***46*** ページ)

❻ C.TONE(センター トーン)表示(➡ ***38***、***47*** ページ)

❼ B.BOOST(バスブースト)表示(➡ ***36***、***46*** ページ)
バスブーストを使っているとき点灯します。

❽ MIDNIGHT(ミッドナイト)表示(➡ ***32***、***47*** ページ)
ミッドナイトモードを使っているとき点灯します。

❾ INPUT ATT(インプット アッテネーター)表示(➡ ***36*** ページ)
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

❿ SLEEP(スリープ)表示(➡ ***22*** ページ)
おやすみタイマーを使っているとき点灯します。

⓫ デジタル音声フォーマット表示(➡ ***23***、***39***、***40*** ページ)
識別したデジタル音声フォーマットに応じて点灯します。

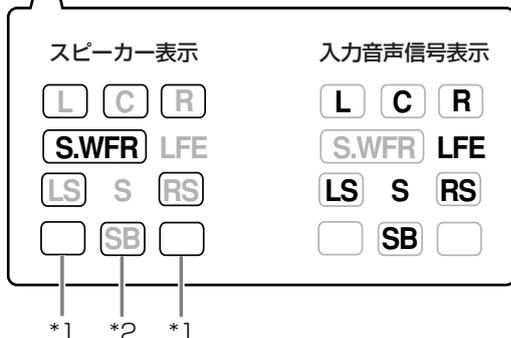
⓬ スピーカー表示/入力音声信号表示
入力音声信号と、スピーカー設定に応じて点灯します。下の「スピーカー表示/入力音声信号表示について」をご覧ください。

⓭ VIRTUAL SB(バーチャル サラウンドバック)表示(➡ ***44*** ページ)
バーチャルサラウンドバックが動作しているとき点灯します。

⓮ サラウンドモード、DSPモード表示(➡ ***21***、***40***〜***42***ページ)
選択しているサラウンドモード、DSPモードに応じて点灯します。

⓯ 文字表示部
サラウンドモード、DSPモード名やソース(音源)名などを表示します。

スピーカー表示/入力音声信号表示について

スピーカーと入力している音声信号を表示します。

スピーカー表示
音声が出力されているスピーカーのスピーカー表示(枠)が点灯します。
- サブウーハーを「YES」に設定しているときは(➡ ***27*** ページ)、S.WFR表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカー表示は、スピーカー設定や選択中のサラウンドモード、DSPモードに応じて点灯します。

入力音声信号表示
- L ： 左フロント音声信号
- R ： 右フロント音声信号
- C ： センター音声信号
- LS ： 左サラウンド音声信号
- RS ： 右サラウンド音声信号
- S ： モノラルサラウンド音声信号
- SB ： サラウンドバック音声信号
- LFE ： LFE(Low(ロー) Frequency(フリケンシー) Effect(エフェクト))信号

*1： サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「2SPK」のとき(➡ ***28*** ページ)

*2： サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「1SPK」のとき(➡ ***28*** ページ)

接　続　— 接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。—

スピーカーを接続する

■接続するときのご注意

各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因になります。

■接続するスピーカーについて

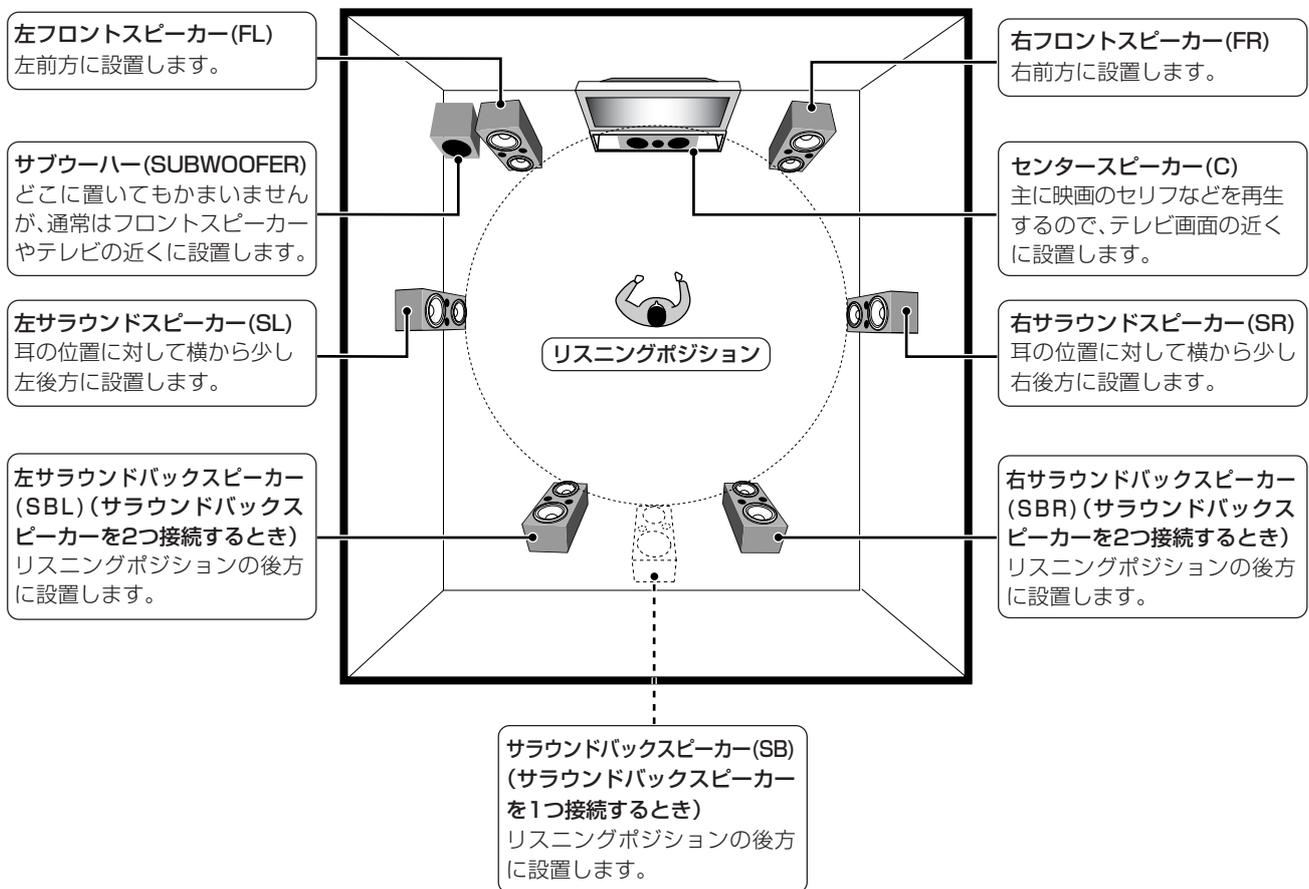
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは、6Ω～16Ωです。
Dolby DigitalやDTSのDVDソフトを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーは、特性の揃ったスピーカーを使うことが理想的です。

■スピーカーの接続について

サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、L側の端子(サラウンドバックスピーカー 左·L端子)に接続し、サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定を「1SPK」にします。(➡ ***28*** ページ)

■スピーカーの設置について

下の設置例を参考に、実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。
部屋の間取りなどで理想的な設置がむずかしいときでも、スピーカー設定を適切におこなうことで音場の調節をすることができます。

理想的なスピーカー配置例(7.1ch配置のとき)

設置のポイント

- リスニングポジションを中心とした同一円周上に各スピーカーを設置するようにします。
- スピーカーからの音には指向性*がある場合があるので、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置します。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面で音が最もよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

■スピーカーの設置·接続のあとで

スピーカーの設置·接続のあとは、**スピーカーの設定**(➡ ***27*** ページ)や**出力レベルの調節**(➡ ***35*** ページ)をおこないます。
本機では、このような設定や調節を、**スピーカー簡単設定**(➡ ***24*** ページ)を使っておこなうこともできます。

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを本体背面のスピーカー端子に接続します。スピーカーコードは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。

スピーカーの左右と極性(⊕と⊖)を間違えないように正しく接続してください。

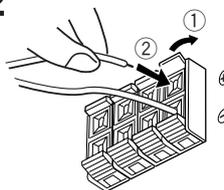
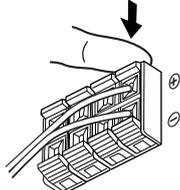
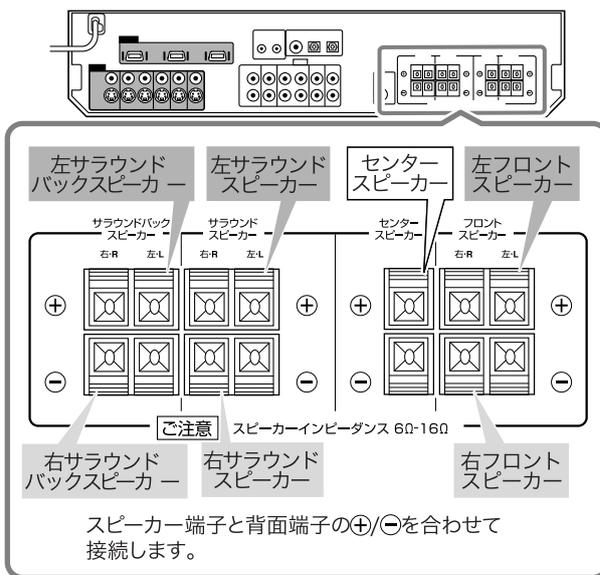
■サラウンドバックとバーチャルサラウンドバックについて

Dolby Digital Surround EX信号、DTS-ES信号など、6.1チャンネルの音声信号を再生するときには、サラウンドバックスピーカーが必要です。サラウンドバックスピーカーが接続されていないときは、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバック音声信号を再生できます。詳しくは「バーチャルサラウンドバックについて」(➡ ***44*** ページ)をご覧ください。

ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。** 事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

お知らせ

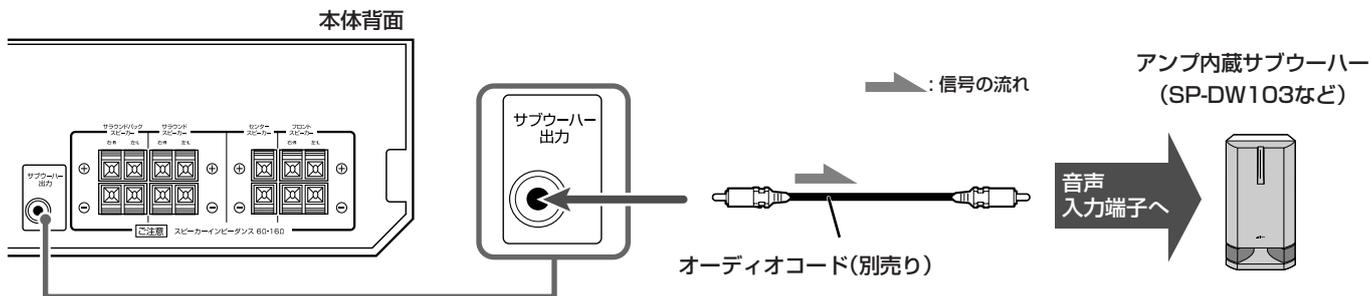
- スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えると、音質やステレオ感がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いてしっかり接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■アンプ内蔵サブウーハーの接続

本機にアンプ内蔵サブウーハー(別売り)を接続すると、より迫力のある重低音をお楽しみいただけます。

特に、Dolby Digital、DTSなどのサラウンドソフトを再生すると、LFE(Low Frequency Effect:低域効果音)信号が再生され、映画館のような重低音が楽しめます。

アンプ内蔵サブウーハーを接続するときは、オーディオコード(別売り)でサブウーハー出力端子に接続します。

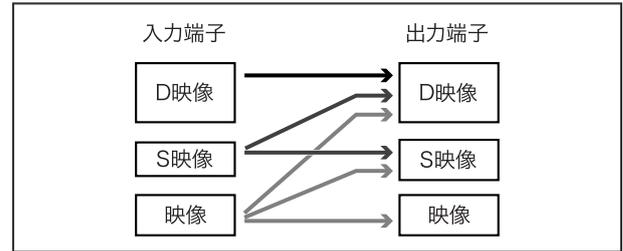
接続のあとで、サブウーハーの設定を「YES」に設定します。(➡ ***27*** ページ)

- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

機器を接続する前に

ビデオコンバーターについて

本機にはビデオコンバート（変換）機能が搭載されています。映像出力と映像入力で異なる信号を選んだ場合、映像信号は右のように変換されます。

- D4映像端子からの入力信号は、S映像端子または映像端子からは出力されません。
- S映像端子からの入力信号は、映像端子からは出力されません。

接続のあとで、各ソース（音源）の映像接続の種類を設定します。（➡ *33* ページ）

録画をするときのご注意

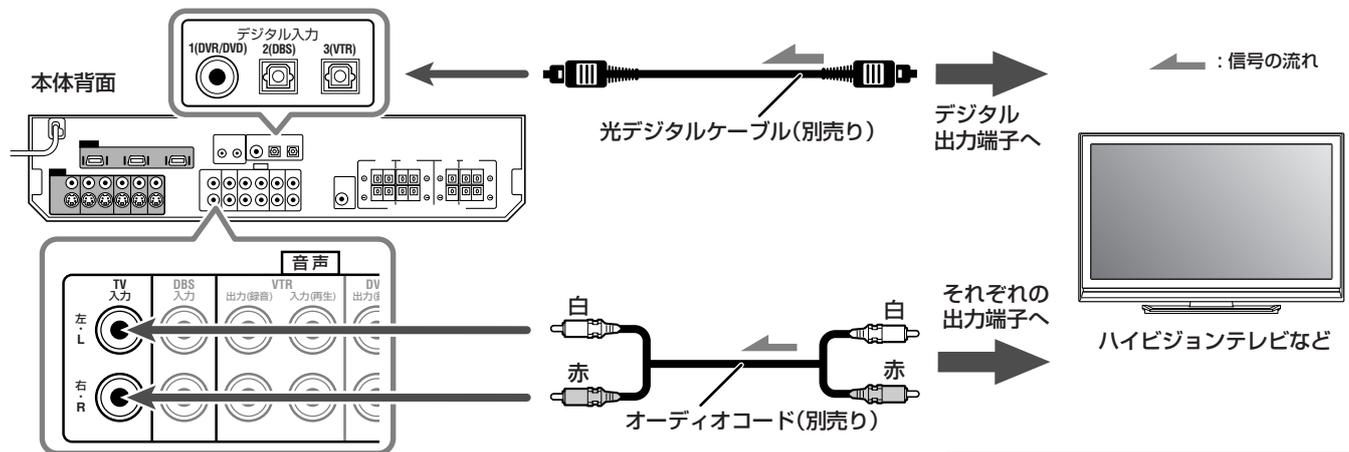
D4映像入力端子に接続した機器の映像は、録画できません。本機に接続した録画機器で録画をするときは、録画機器と再生機器を次のように接続してください。

- 録画機器をS映像出力（録画）端子に接続したときは、再生機器をS映像入力（再生）端子または映像入力（再生）端子に接続します。
- 録画機器を映像出力（録画）端子に接続したときは、再生機器を映像入力（再生）端子に接続します。

テレビを接続する

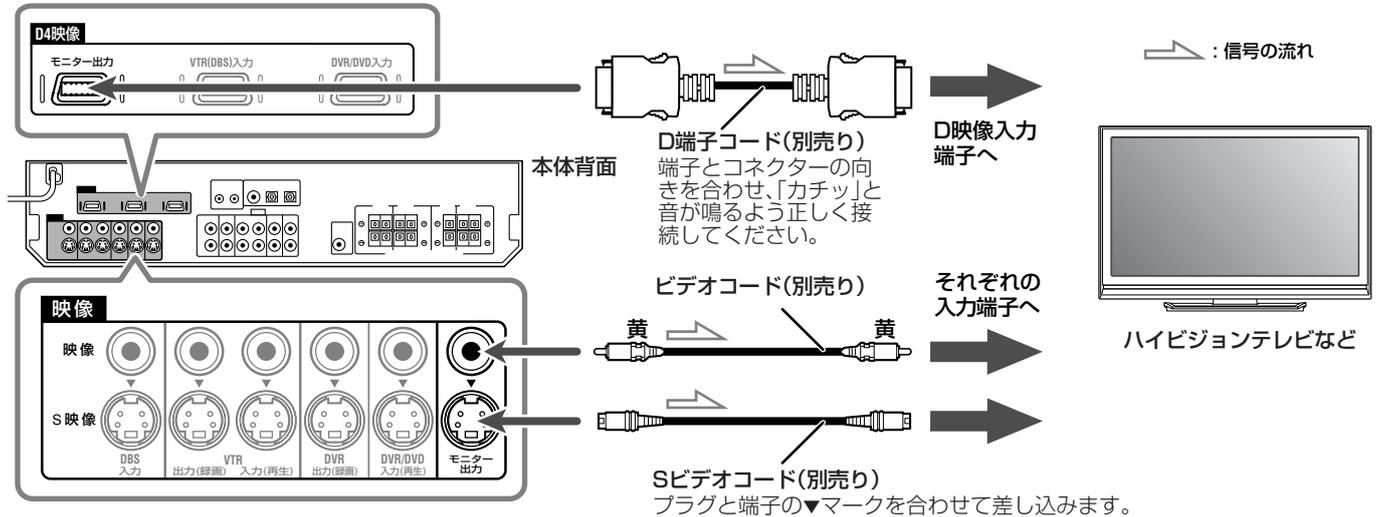
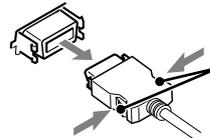
本機とテレビを接続します。テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください。（➡ 裏表紙）

音声の接続

テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くための接続です。
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。AACサラウンドをお楽しみいただくには、デジタル接続が必要です。

- テレビをデジタル入力端子に接続するときは、ソース（音源）名を設定します。テレビを接続したデジタル入力端子のソース（音源）名を「TV」に設定します。（➡ *33* ページ）

光デジタルケーブルを接続する前に、保護キャップを外してください。

映像の接続

本機に接続したビデオ機器(DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、地上デジタル/BS/CSチューナー、外部機器)の映像を、テレビで見るための接続です。
D4映像モニター出力端子、S映像モニター出力端子、映像モニター出力端子の3種の端子から選んで接続します。
• コンポーネント映像入力端子付のテレビとの接続には、別売りのD端子－コンポーネント端子接続コード(VX-DS210など)をお使いください。

D端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引いて外します。

映像接続について

本機にはD4映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子があります。以下の順でより高品位の画質をお楽しみいただけます。
- **D4映像端子**　：コンポーネント映像信号を扱い、信号フォーマットやアスペクト比などの情報も送ります。
- **S映像端子**　：映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号を扱います。
- **映像端子**　：輝度信号と色信号を複合した信号を扱います。

D端子の種類について

本機のD端子はD4信号まで対応します。本機には、D1～D4映像出力に対応したDVDレコーダー/プレーヤーや、D1～D4映像入力に対応したテレビなどを接続できます。D端子の種類と対応信号の関係は右のようになっています。
数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

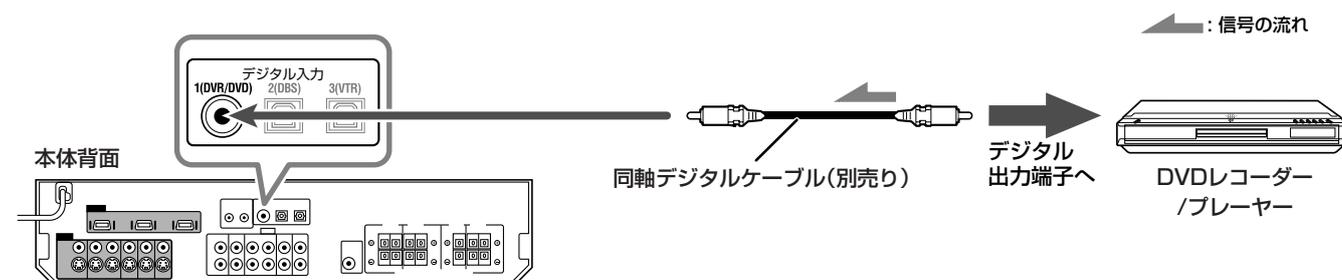
端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	—	○	○
D2	—	—	○	○
D1	—	—	—	○

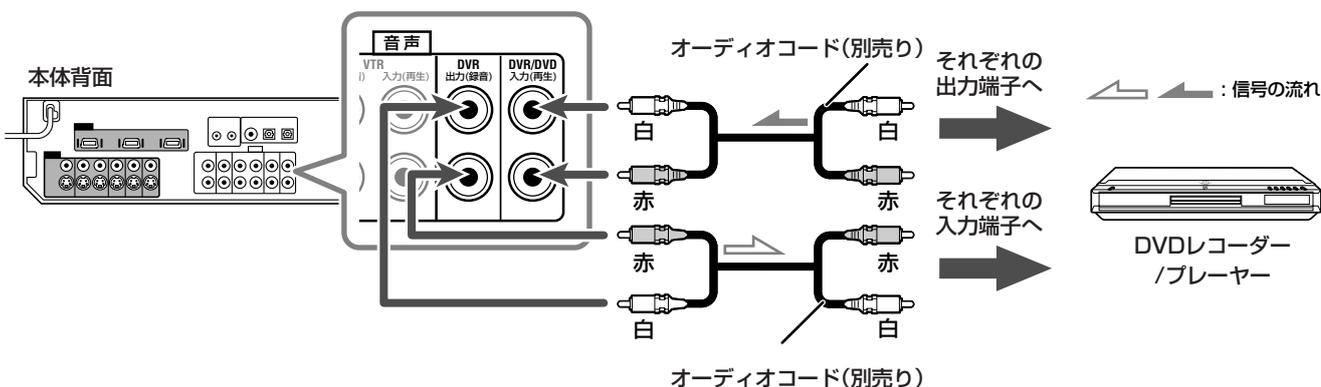
DVDレコーダー/プレーヤーを接続する

本機とDVDレコーダー/プレーヤーを接続します。DVDレコーダー/プレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください。（➡ 裏表紙）

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。Dolby DigitalやDTSなどのサラウンドをお楽しみいただくには、デジタル接続が必要です。

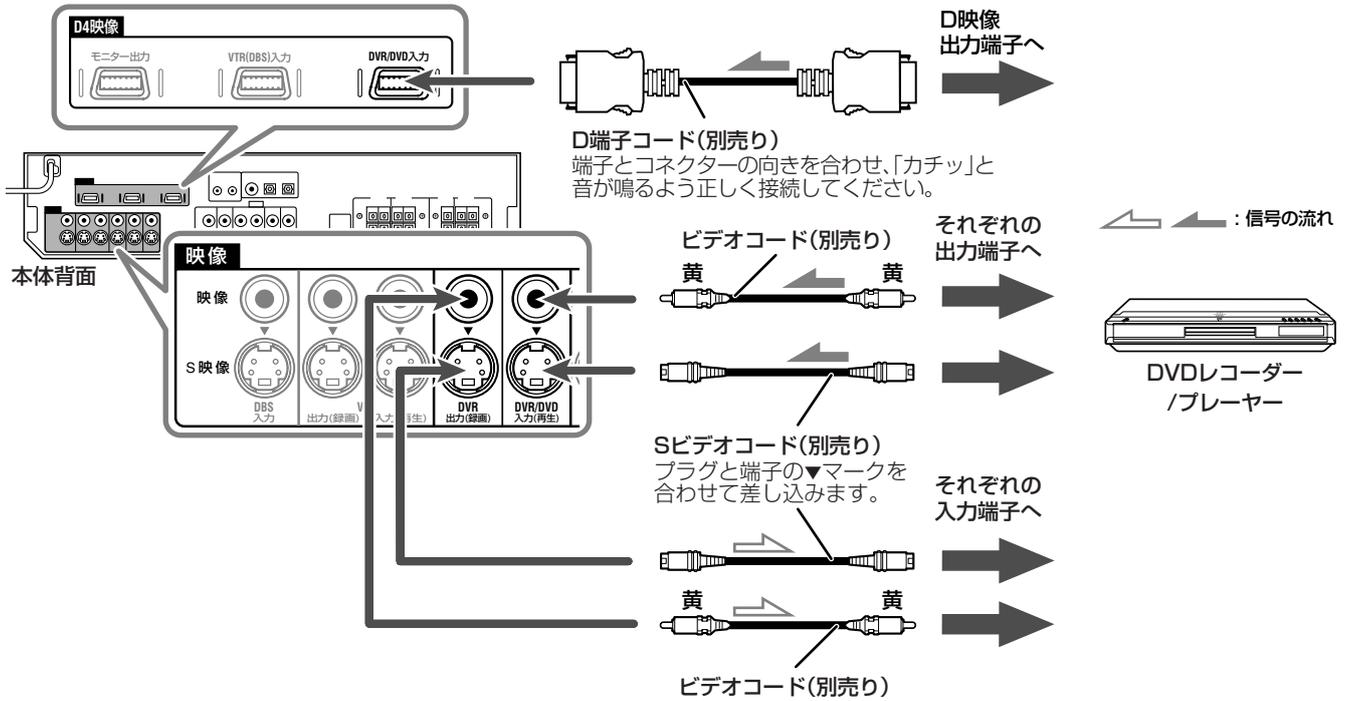
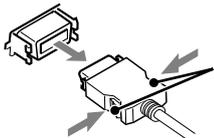
<デジタル接続>

- 光デジタルケーブル（別売り）で、DVDレコーダー/プレーヤーを1（DVR/DVD）以外のデジタル入力端子に接続するときは、接続したデジタル入力端子のソース（音源）名を「DVR/DVD」に設定します。（➡ **33** ページ）

<アナログ接続>

お知らせ

- DVDプレーヤーを接続する場合は、DVR出力（録音）端子との接続は、必要ありません。
- 本機のデジタル入力端子に接続した再生機器の音声は、DVDレコーダーでは録音できません。アナログで接続してください。

映像の接続

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子から選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します。(➡ ***33*** ページ)

- コンポーネント映像端子付のDVDレコーダー/プレーヤーとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS210など)をお使いください。

D端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引いて外します。

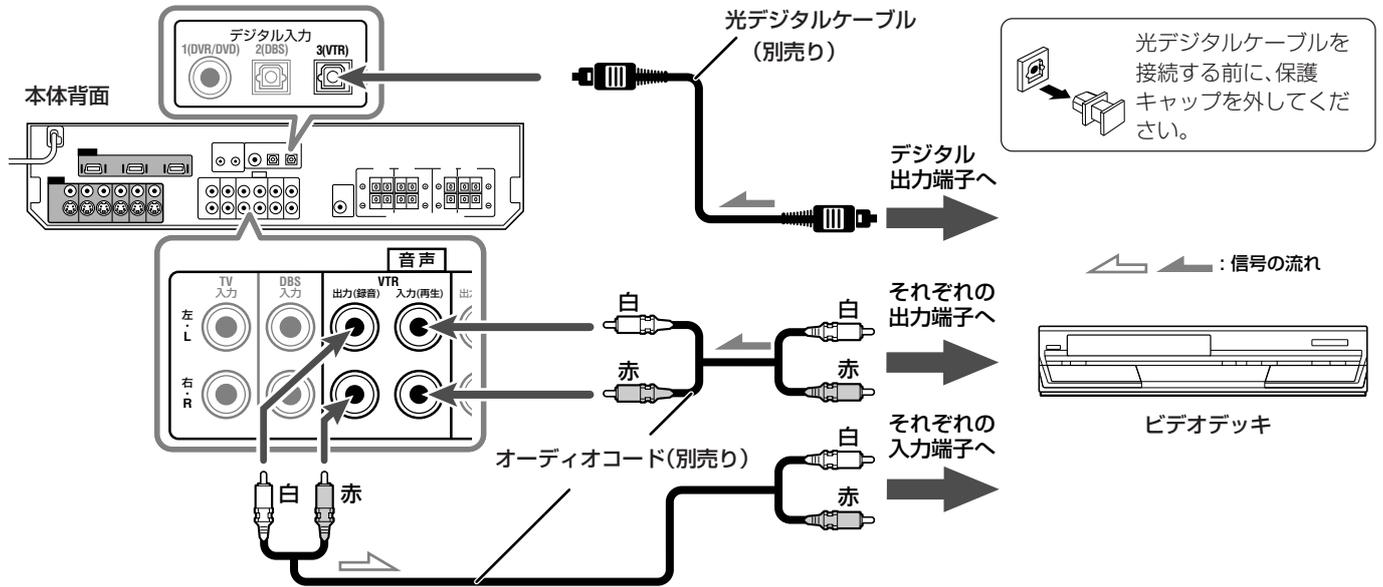
お知らせ

- DVDプレーヤーを接続する場合は、DVR出力(録画)端子との接続は、必要ありません。
- D4映像入力端子に接続した再生機器の映像は、録画できません。

ビデオデッキを接続する

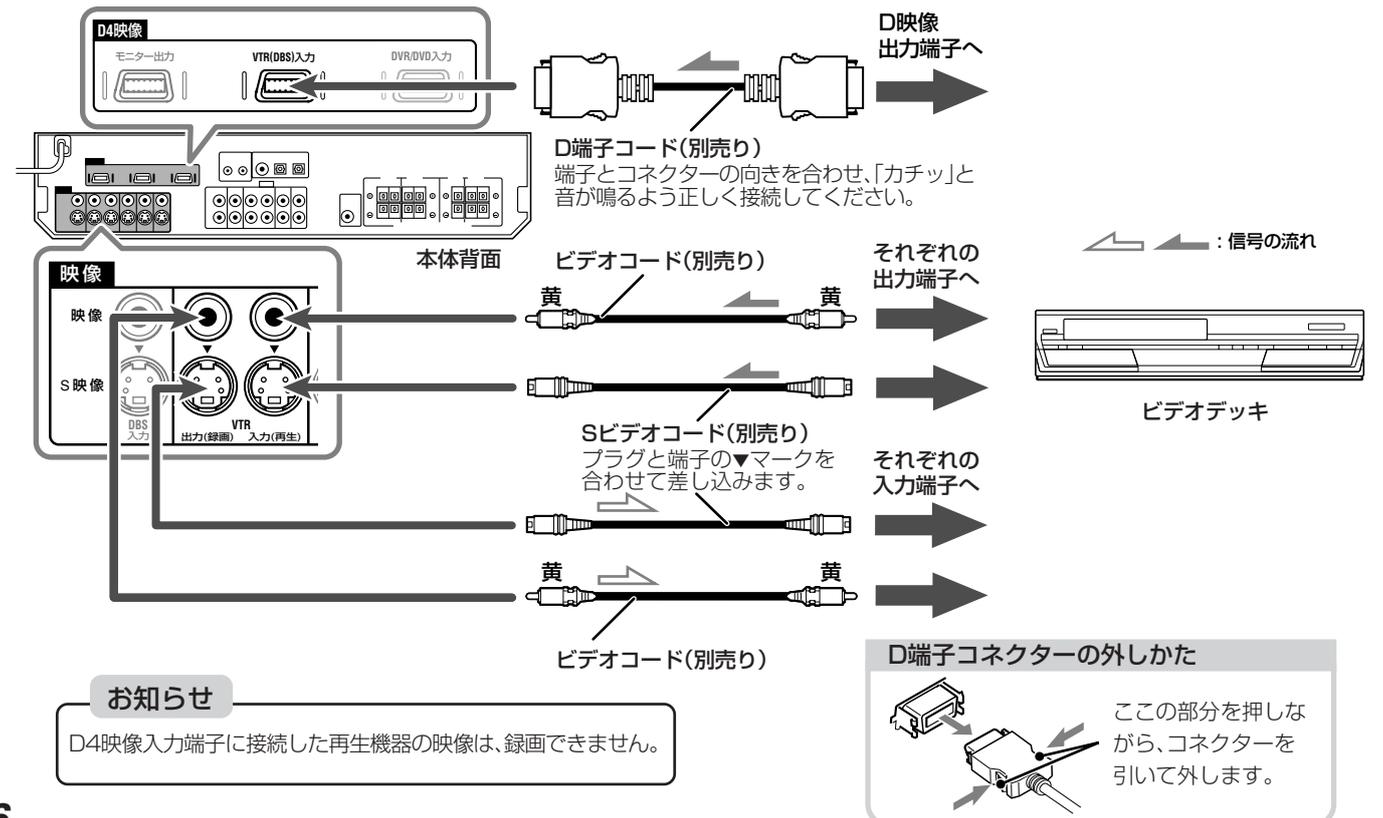
本機とビデオデッキを接続します。ビデオデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください。（➡ 裏表紙）

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。

• ビデオデッキを3（VTR）以外のデジタル入力端子に接続するときは、接続したデジタル入力端子のソース（音源）名を「VTR」に設定します。（➡ ***33*** ページ）

映像の接続

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子から選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します。（➡ ***33*** ページ）

• コンポーネント映像端子付のビデオデッキとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS210など）をお使いください。

お知らせ

D4映像入力端子に接続した再生機器の映像は、録画できません。

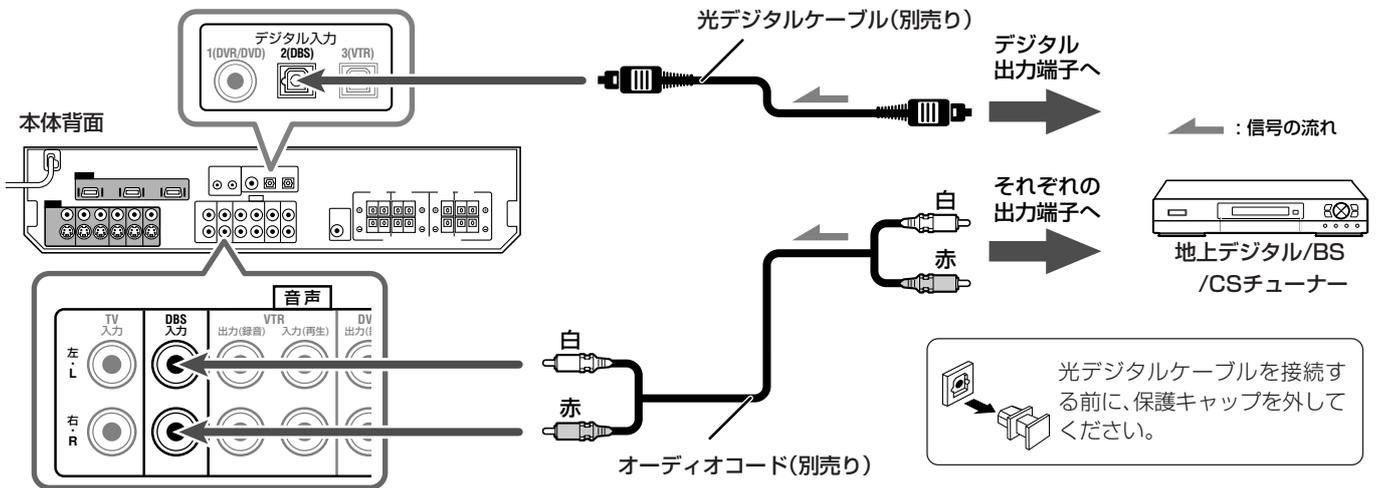
D端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引いて外します。

地上デジタル/BS/CSチューナーを接続する

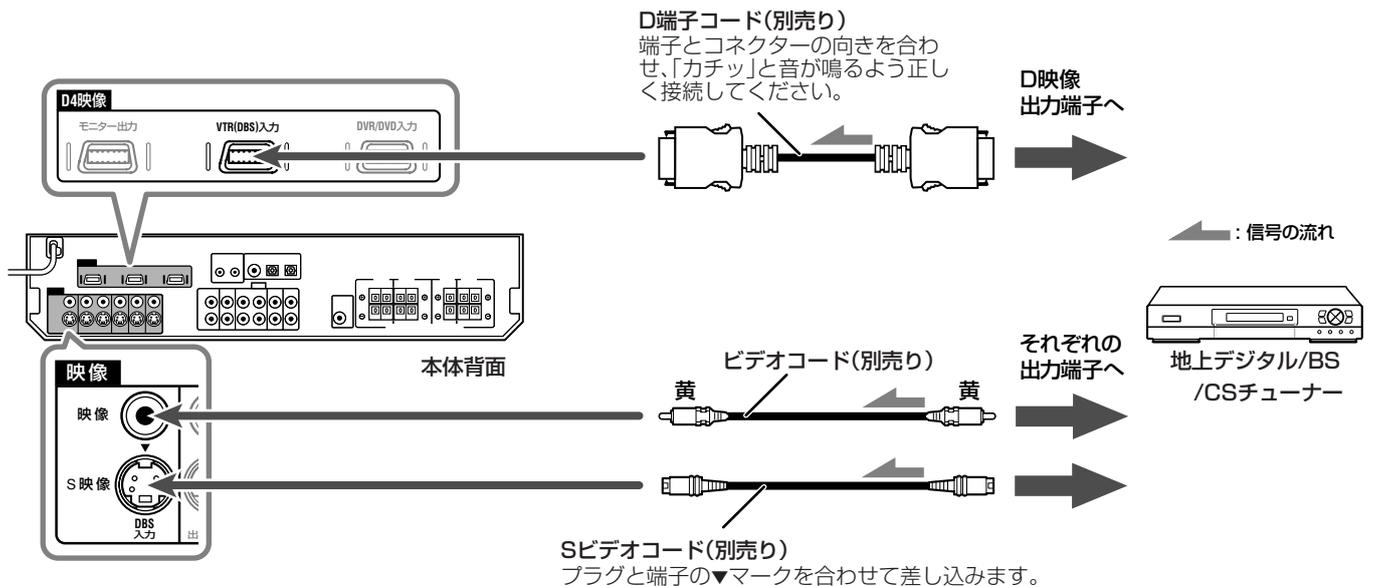
本機と地上デジタル/BS/CSチューナーを接続します。地上デジタル/BS/CSチューナーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください。(➡ 裏表紙)

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。AACサラウンドをお楽しみいただくには、デジタル接続が必要です。

- 地上デジタル/BS/CSチューナーを2(DBS)以外のデジタル入力端子に接続するときは、接続したデジタル入力端子のソース(音源)名を「DBS」に設定します。(➡ ***33*** ページ)

映像の接続

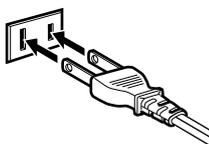
D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子から選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します。(➡ ***33*** ページ)

- コンポーネント映像端子付の地上デジタル/BS/CSチューナーとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS210など)をお使いください。

D端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引いて外します。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、本体のスタンバイランプが点灯します。

家庭用コンセント
AC100V、50Hz/60Hz

お知らせ

サラウンドなどの設定は、次のような場合に取り消されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。

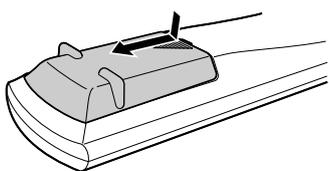
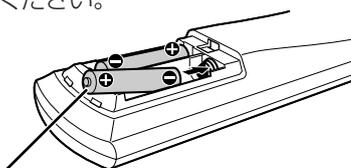
- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

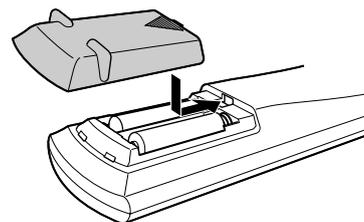
ご注意

- 電源コードはテレビやビデオデッキなどから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりする場合があります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

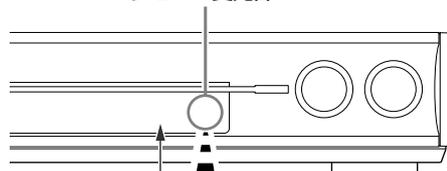
リモコンを準備する

単3形の乾電池を2本入れます。**電池の極性**(⊕、⊖)を間違えないように入れてください。

1. 裏ブタを外す
矢印の方向にスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる
リモコン内部の表示に極性(⊕ ⊖)を合わせ、正しく入れてください。

単3形乾電池

3. 裏ブタをしめる
矢印の方向に戻します。

リモコンの操作範囲について

- リモコンの先端を本体前面のリモコン受光部に向けて操作します。操作可能な距離は、リモコン受光部より約5mですが、斜めから操作すると短くなります。また、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できない場合があります。

リモコン受光部

- リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっていると、動作しないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗しています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。

お知らせ

- 付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

パソコンを接続する(USB接続)

本機とパソコンをUSB接続します。パソコンからの音声を本機を通してお楽しみいただけます。

お知らせ

本機で音声を聞くことのできるパソコンは、CD-ROMドライブとUSB端子を装備し、以下のOSがインストールされたパソコンです。

- Windows®98 SE
- Windows®Me
- Windows®2000
- Windows®XP

Windows®98 SE、Windows®Me、Windows®2000、Windows®XPは、米国Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

本機とパソコンを初めて接続するときは、次の手順でパソコンにUSBドライバーをインストールします。

- ここではWindows®XPで説明します。

1 パソコンの電源を入れる

既にパソコンの電源が入っていてアプリケーションが開いているときは、すべてのアプリケーションを終了させてください。

2 本機の電源を「入」にして、ソース(音源)に「USB」を選ぶ

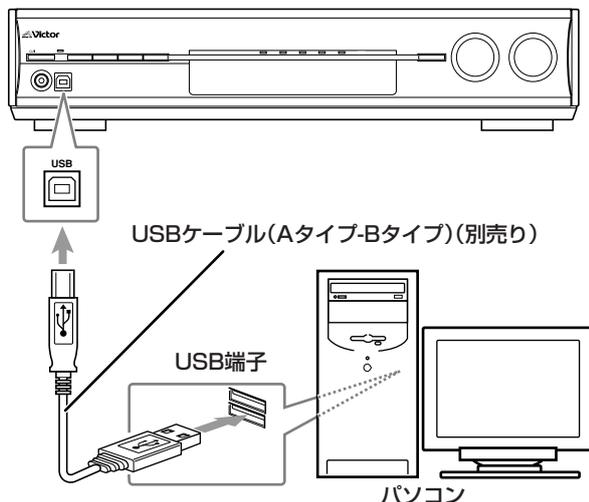
- 本機の電源の「入」⟷「切」やソース(音源)の選び方は、***20***または***21*** ページをご覧ください。

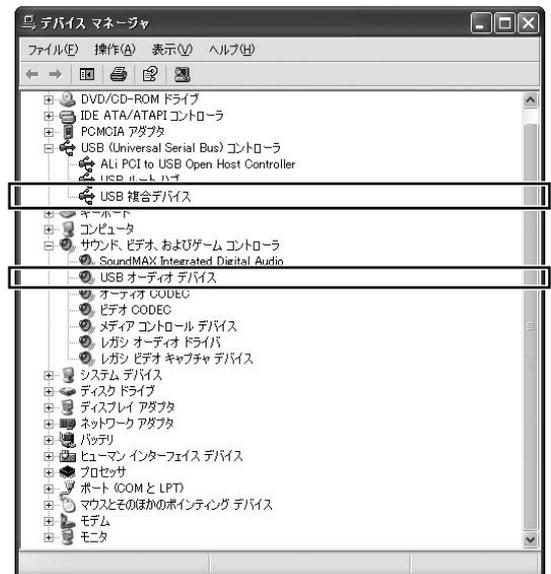
3 本機の音量を最小にする

- 本機の音量の調節方法は、***20***または***21*** ページをご覧ください。

4 本機とパソコンをUSBケーブルで接続する

USBドライバーがパソコンへ自動的にインストールされます。

- USBドライバーが自動的にインストールされない場合は、パソコンの画面表示に従ってインストールしてください。

5 パソコンにドライバーがインストールされているかを確認する

以下の手順でパソコンの画面を開きます。
[スタート]→[コントロール パネル]→[システム]→[ハードウェア]→[デバイス マネージャ]を開きます。
[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]フォルダの中に「USB 複合デバイス」、[サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ]フォルダの中に「USB オーディオ デバイス」があればインストールは完了しています。

パソコンからの音声を本機を通して聞くには

1. ソース(音源)に「USB」を選ぶ

2. パソコンで音声を再生する

- お使いのパソコンの取扱説明書も併せてご覧ください。

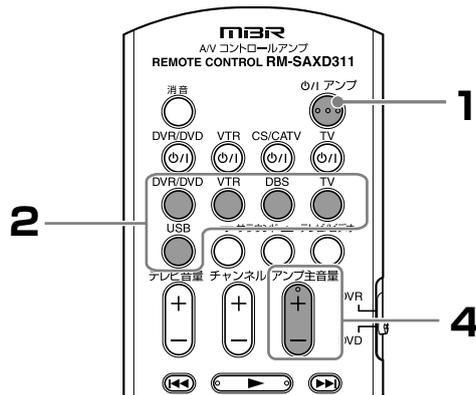
お知らせ

- インストールが正常に完了すると、次に本機とパソコンをUSB接続したときに、上の手順**5**のように表示されます。表示されていないときは、パソコンが本機を認識していません。一度接続を外し、もう一度接続し直してください。それでも認識しないときは、パソコンを再起動してください。
- 接続したパソコンの設定や仕様によっては、うまく再生されなかったり、音がとんだり、音質が落ちたりする場合があります。

ご注意

- ドライバーのインストール中やパソコンが本機を認識している間は、本機の電源を「**切**」にしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- USBケーブルはバージョン1.1以降のものをお使いください。また、1.5メートル以下の長さのケーブルのご利用をお勧めします。
- パソコンからの音声を本機を通して聞かないときは、接続を外してください。
- 本機からパソコンへデータを送信することはできません。

ふだんの使いかた

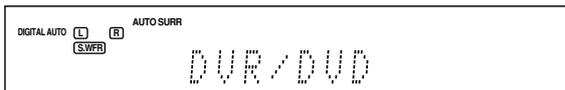
リモコンから

1 ⏻/I アンプボタンを押して本機の電源を「入」にする

本体のスタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に選んでいたソース(音源)が選ばれ、表示窓に表示されます。

例:最後に「VTR」を選んでいた場合

2 ソース(音源)機器選択ボタンを押して再生するソース(音源)を選ぶ

選んだソース(音源)名が表示され、
ソース(音源)ランプが点灯します。

例:「DVR/DVD」を選んだ場合

3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 アンプ主音量(＋/－)ボタンを押して音量を調節する

アンプ主音量

音量を上げる

音量を下げる

音量レベルは、0(最小)～50(最大)までの範囲で調節できます。

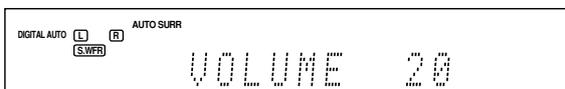
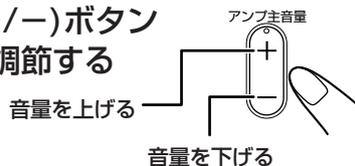
電源を「切」にする

⏻/I アンプボタンを押します。
本体のスタンバイランプが点灯します。

ご注意

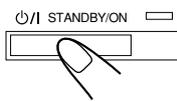
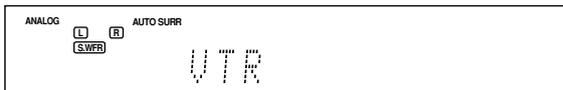
次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。
音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 本機の電源を「**入**」⟷「**切**」するとき
- ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするとき

本体から操作するときも同様です。

本体から

1 ⏻/I STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を「入」にする

スタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に選んでいたソース(音源)が選ばれ、本体表示窓に表示されます。

例:最後に「VTR」を選んでいた場合

2 SOURCE SELECTOR/MULTI JOGを回して再生するソース(音源)を選ぶ

回すごとにソース(音源)名が切り換わります。
ソース(音源)に合わせて、ソース(音源)ランプが点灯します。

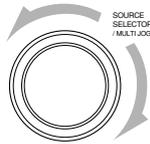
3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 MASTER VOLUMEを回して音量を調節する

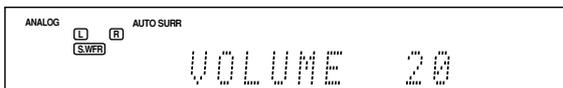
音量レベルは、0(最小)〜50(最大)までの範囲で調節できます。

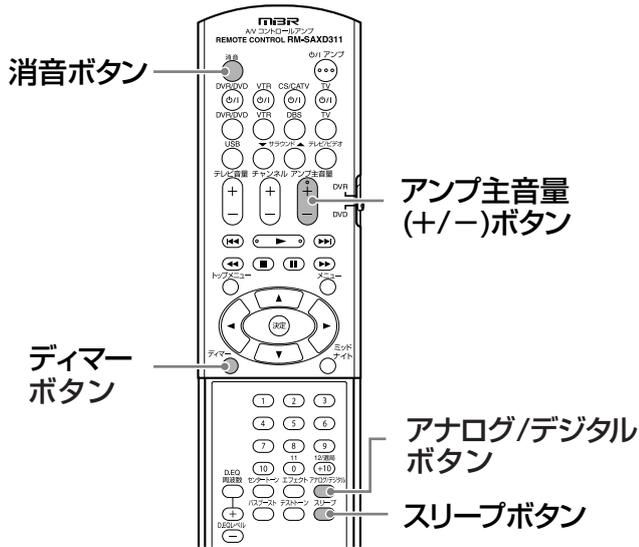
電源を「切」にする

⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
スタンバイランプが点灯します。

ヘッドホンで楽しむ

本体PHONES端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出なくなります。表示窓に「HEADPHONE」が表示されHEADPHONE表示が点灯します。ヘッドホンを使うときは、スピーカーの設定に関係なく次の信号が出力されます。

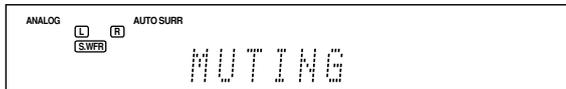
- マルチチャンネル信号が入力されたときは、各チャンネルの音声信号がダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。
- ヘッドホンでもサラウンドを楽しむことができます。サラウンド再生中にヘッドホンを使用すると、表示窓に「3D HEADPHONE」と表示され、HEADPHONE表示、DSP表示が点灯します。

ふだんの使いかた

便利な機能

リモコンから

一時的に音を消す(消音)

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消したいときに便利です。

消音ボタンを押す

本体表示窓に「MUTING(ミューティング)」と表示されます。
スピーカーとヘッドホンから音が出なくなります。

もとの音量に戻すには

アンプ主音量(+/−)ボタンを押すか、もう一度**消音**ボタンを押します。本体のMASTER VOLUMEを回しても、もとの音量に戻ります。

照明の明るさを変える(ディマー)

映画ソフトなどをご覧になるときなど、本体表示窓およびイルミネーションランプの明るさを変えたいときに使います。

ディマーボタンを押す

ディマーボタンを押すごとに、明るさが4段階に変化します。

→ ふだんの明るさ → やや暗い → 暗い → 消灯 ┐

- 本体のDIMMER(ディマー)ボタンを使っても、本体表示窓およびイルミネーションランプの明るさを変えられます。
- 消灯時に本機を操作すると、一時的に明るくなります。

おやすみタイマーを使う(スリープタイマー)

音楽を聞きながら眠りたいときなどに使います。
設定した時間が経過すると本機の電源が自動的に「**切**」になります。

スリープボタンを押す

スリープボタンを押すごとに、設定時間(分)が次のように切り換わります。

10min → 20min → 30min → 40min →
50min → 60min → 70min → 80min →
90min → OFF → (始めに戻る)

- おやすみタイマーの動作中は、表示窓のSLEEP表示が点灯します。

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変える

おやすみタイマーを設定後に**スリープ**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープ**ボタンをくり返し押して希望の時間を選びます。

おやすみタイマーを解除する

スリープボタンをくり返し押して「**OFF**」を表示させます。おやすみタイマーが解除され**SLEEP**表示は消灯します。
電源を「**切**」にしたときにも、おやすみタイマーは解除されます。

お知らせ

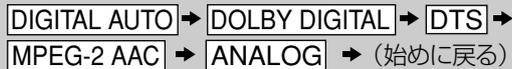
本機に接続している他の機器の電源は、自動的に「**切**」になりません。AVコンピュリンクでDVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、テレビを接続している場合は、本機に連動して電源が自動的に「**切**」になります。(➡ ***48*** ページ)

音声の入力信号を切り換える

本機と接続機器の接続方法に合わせて、ソース(音源)ごとに設定します。「DIGITAL AUTO」に設定しているときに、無音状態やノイズによってデジタル信号が正しく判別できないことがあります。このような場合に、手動でデジタル音声フォーマットを切り換えることができます。

アナログ/デジタルボタンを押す

ボタンを押すごとに、デジタル音声フォーマットが次のように切り換わります。

DIGITAL AUTO → DOLBY DIGITAL → DTS → MPEG-2 AAC → ANALOG →（始めに戻る）

DIGITAL AUTO	：デジタル音声フォーマットを自動判別します。表示窓のDIGITAL AUTO表示と、判別されたデジタル音声フォーマット表示が点灯します。
DOLBY DIGITAL*	：Dolby Digital対応信号を聞くときに選びます。Dolby Digital信号が入力されると、表示窓のDIGITAL表示とDIGITAL表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。
DTS*	：DTSデジタルサラウンド対応信号を聞くときに選びます。DTS信号が入力されると、表示窓のDIGITAL表示とdts表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。 • DTS 96/24信号が入力されたときは96/24表示も点灯します。
MPEG-2 AAC*	：MPEG-2 AAC対応信号を聞くときに選びます。MPEG-2 AAC対応信号が入力されると、表示窓のDIGITAL表示とMPEG-2 AAC表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。
ANALOG	：アナログ信号音声を聞くときに選びます。表示窓のANALOG表示が点灯します。

* 本機の電源を「**切**」にしたり、ソース(音源)を切り換えたときは、「DIGITAL AUTO」に戻ります。

- ソース(音源)が「USB」のときは、この機能は働きません。
- デジタル入力端子に割り当てられているソース(音源)名が接続機器名と合っていない場合は、デジタル音声を選ぶことができない場合があります。接続した機器名と同じソース(音源)名をそれぞれのデジタル入力端子に正しく設定してください。詳しくは「デジタル入力端子のソース(音源)名の割り当て」(➡ ***33*** ページ)をご覧ください。

デジタル信号について

本機で表示されるデジタル信号は次の5つです。デジタル音声が入力されると、対応するデジタル音声フォーマット表示が表示窓に点灯します。

LINEAR PCM	：リニアPCMのとき点灯します。
DIGITAL	：ドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
dts	：DTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
dts 96/24	：DTS 96/24信号のとき点灯します。
MPEG-2 AAC	：MPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

その他の機能について

本機は、次の操作をしたとき、自動的にソース(音源)ごとの設定を記憶します。

- 本機の電源を「**切**」にしたとき
- 本機のソース(音源)を切り換えたとき

ソース(音源)ごとに記憶されるのは次の内容です。

- アナログ/デジタル入力の設定(➡ 左記)
- スピーカーの出力レベル(➡ ***35*** ページ)
- バスブーストの設定(➡ ***36***、***46*** ページ)
- インプットアッテネーターの設定(➡ ***36*** ページ)
- サラウンドモード、DSPモードの設定(➡ ***42*** ページ)
- イコライザー調節(➡ ***35***、***46*** ページ)
- ミッドナイトモードの設定(➡ ***32***、***47*** ページ)

再び同じソース(音源)を選ぶと、記憶した内容が呼び出されます。

スピーカーの設定をする

スピーカーの設定について

■スピーカーの設定項目について

接続したスピーカーの情報（設置の有無、サイズ、設置数など）を本機に設定することで、サラウンド（➡ ***39***、***40*** ページ）の再生に最適な音場を再現することができます。
スピーカーの設定には次の4項目があります。（ ）内は本体表示窓に表示される設定項目名です。

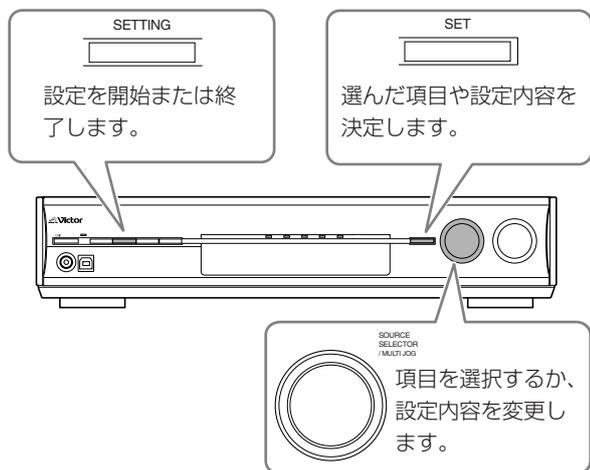
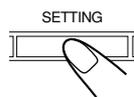
項目	内容
サブウーハーの設定（SUBWOOFER）	サブウーハーを使用するかどうかを設定します。
スピーカーのサイズ設定 （FRONT SPK、CENTER SPK、SURROUND SPK、S BACK SPK）	フロントスピーカー（FRONT SPK）、センタースピーカー（CENTER SPK）、サラウンドスピーカー（SURROUND SPK）、サラウンドバックスピーカー（S BACK SPK）について、使用するかどうか、またはユニットのサイズを設定します。
サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定（S BACK OUT）	サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を設定します。
スピーカーの距離設定 （FRONT L DIST、FRONT R DIST、CENTER DIST、SURR L DIST、SURR R DIST、S BACK L DIST、S BACK R DIST）	各スピーカーをリスニングポジションから等距離に配置できないときに使う設定です。理想的配置に近づけるために出力タイミングの遅れを調節します。

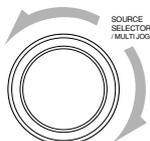
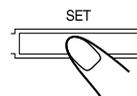
スピーカー簡単設定をする

■スピーカー簡単設定について

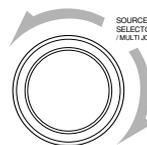
スピーカーの簡単設定機能（クイックスピーカーセットアップ）を使うと、「サブウーハーの設定」、「スピーカーサイズの設定」、「サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定」および「スピーカーの距離設定」の基本設定を手早くおこなうことができます。

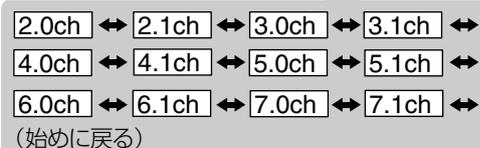
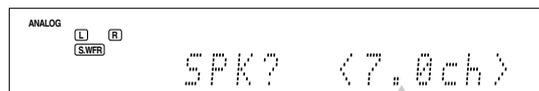
- 設定内容は、手順**7**が終了したとき登録されます。操作を途中で止めると、それまでの設定内容は登録されません。
- 設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース（音源）表示に戻ります。
- より詳細な設定をする場合は、「詳細なスピーカー設定」（➡ ***27***～***29*** ページ）をご覧ください。

本体のみ

1 SETTINGボタンを押す

2 MULTI JOGを回して「QUICK SPK SET」を表示させる

ANALOG L R S.WFR QUICK SPK SET

3 SETボタンを押す

スピーカーの数が表示されます。
- それまでの設定にかかわらず、「**7.0ch**」が始めに表示されます。

4 MULTI JOGを回して接続したスピーカーの数を選ぶ

MULTI JOGを回すと下図のように数が変わります。

2.0ch ↔ 2.1ch ↔ 3.0ch ↔ 3.1ch ↔
4.0ch ↔ 4.1ch ↔ 5.0ch ↔ 5.1ch ↔
6.0ch ↔ 6.1ch ↔ 7.0ch ↔ 7.1ch ↔
（始めに戻る）

- 選択したスピーカーの数にあわせて、スピーカーのサイズが設定されます。詳しくは「スピーカー簡単設定によるスピーカーサイズの設定」（➡ ***25*** ページ）をご覧ください。

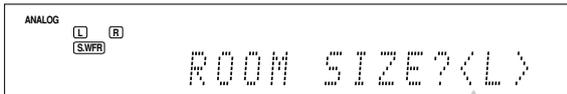
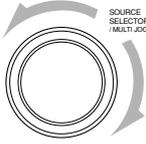
5 SETボタンを押す

リスニングルームの大きさが表示されます。
- それまでの設定にかかわらず、「L」が始めに表示されます。

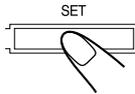
6 MULTI JOGを回してリスニングルームの大きさを選ぶ

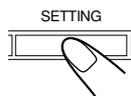
MULTI JOGを回すと
下図のように大きさが変わります。

ANALOG L R S.WFR
ROOM SIZE?<L>

L(大) ↔ S(小) ↔
M(中) ↔ (始めに戻る)

- リスニングルームの大きさは、右の「スピーカー簡単設定によるスピーカーの距離と出力レベルの設定」から最も近い大きさを割り出して設定します。
- リスニングルームの大きさを登録すると、スピーカーからリスニングポジションまでの距離が自動的に設定されます。

7 SETボタンを押す

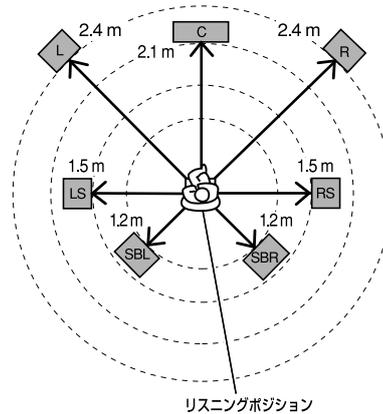
設定が本体に登録されます。
- スピーカー簡単設定によるスピーカー出力レベルの登録内容は、すべてのソース(音源)に対して有効です。ソース(音源)ごとにスピーカー出力レベルを設定するときは、手動でおこなってください。(➡ ***35***、***45*** ページ)

8 SETTINGボタンを押す

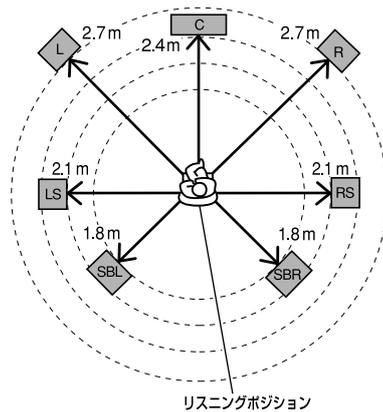
設定前のソース(音源)表示に戻ります。

■スピーカー簡単設定によるスピーカーサイズの設定

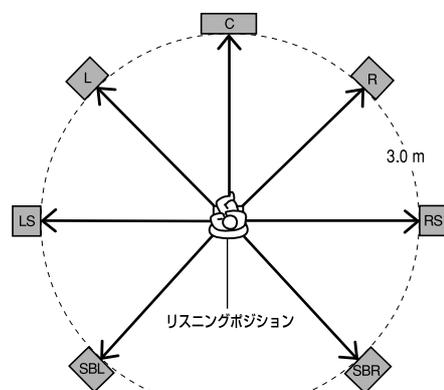
設定項目	スピーカーサイズの自動設定				
ch	サブウーハーの有無	フロントスピーカー(左右)	センタースピーカー	サラウンドスピーカー(左右)	サラウンドバックスピーカー
2.0ch	NO	LRG	NO	NO	NO
2.1ch	YES	SML	NO	NO	NO
3.0ch	NO	LRG	SML	NO	NO
3.1ch	YES	SML	SML	NO	NO
4.0ch	NO	LRG	NO	SML	NO
4.1ch	YES	SML	NO	SML	NO
5.0ch	NO	LRG	SML	SML	NO
5.1ch	YES	SML	SML	SML	NO
6.0ch	NO	LRG	SML	SML	SML (1SPK)
6.1ch	YES	SML	SML	SML	SML (1SPK)
7.0ch	NO	LRG	SML	SML	SML (2SPK)
7.1ch	YES	SML	SML	SML	SML (2SPK)

LRG : 大、SML : 小、YES : あり、NO : 無し

■スピーカー簡単設定によるスピーカーの距離と出力レベルの設定

・ リスニングルームの大きさを「S(小)」に設定したとき

フロントスピーカー (L、R)	0dB
センタースピーカー (C)	−2dB
サラウンドスピーカー (LS、RS)	−4dB
サラウンドバックスピーカー (SBL、SBR)	−6dB

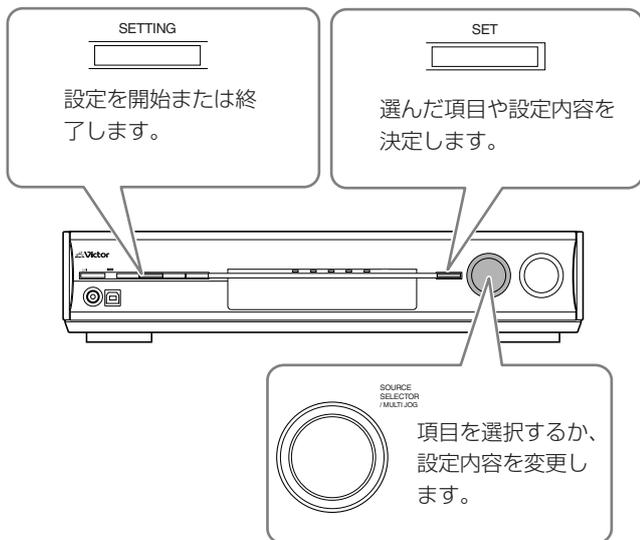
・ リスニングルームの大きさを「M(中)」に設定したとき

フロントスピーカー (L、R)	0dB
センタースピーカー (C)	−2dB
サラウンドスピーカー (LS、RS)	−3dB
サラウンドバックスピーカー (SBL、SBR)	−4dB

・ リスニングルームの大きさを「L(大)」に設定したとき

フロントスピーカー (L、R)	0dB
センタースピーカー (C)	0dB
サラウンドスピーカー (LS、RS)	0dB
サラウンドバックスピーカー (SBL、SBR)	0dB

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする

次の項目について設定します。
- スピーカー簡単設定(「QUICK SPK SET」)(➡ *24* ページ)
- 詳細なスピーカー設定
- 7.1チャンネルサラウンドの設定(「EX/ES/PLIIx」)
- デュアルモノの設定(「DUAL MONO」)
- サブウーハーの出力設定(「SUBWOOFER OUT」)
- クロスオーバー周波数の設定(「CROSSOVER」)
- 低音域のレベル設定(「LFE ATT」)
- ミッドナイトモードの設定(「MIDNIGHT MODE」)
- デジタル入力端子のソース(音源)名の割り当て(「DIGITAL IN」)
- 映像接続の種類の設定(「VIDEO IN」)

操作の手順

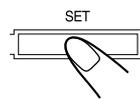
設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、それまでの設定が取り消され、設定前のソース(音源)表示に戻ります。
その場合は、手順**1**からやり直してください。

本体のみ

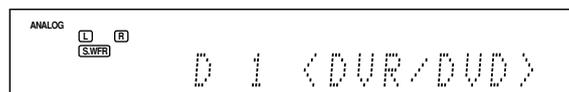
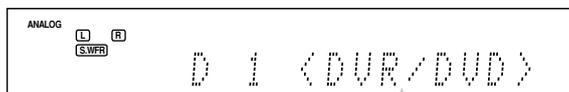
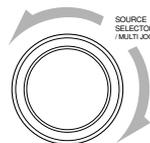
1 SETTINGボタンを押す

2 MULTI JOGを回して設定する項目を選ぶ

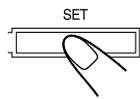
MULTI JOGを回すと
下図のように設定項目が変わります。

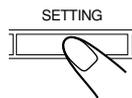
* サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を「1SPK」に設定しているときは(➡ *28* ページ)、「S BACK DIST」と表示されます。

3 SETボタンを押す

- 選んだ項目の現在の設定内容が表示されます。

例:「DIGITAL IN 1」を選んだ場合

4 MULTI JOGを回して設定する値を選ぶ

DVR/DVD ⟷ DBS ⟷
VTR ⟷ TV ⟷(始めに戻る)

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください。(➡ *27*〜*33* ページ)

5 SETボタンを押す

- 他の項目も設定するときは、手順**2**〜**5**をくり返します。

6 SETTINGボタンを押す

設定前のソース(音源)表示に戻ります。

詳細なスピーカー設定

QUICK SPK SET ↔ SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔
CENTER SPK ↔ SURROUND SPK ↔ S BACK SPK ↔
S BACK OUT ↔ DIST UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ S BACK L DIST ↔ S BACK R DIST ↔
EX/ES/PLIIx ↔ DUAL MONO ↔ SUBWOOFER OUT ↔
CROSSOVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT MODE ↔
DIGITAL IN 1 ↔ DIGITAL IN 2 ↔ DIGITAL IN 3 ↔
DVD VIDEO IN ↔ VCR VIDEO IN ↔ DBS VIDEO IN ↔
（始めに戻る）

接続した各スピーカーについて次の設定をします。

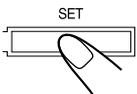
- サブウーハーの設定（「SUBWOOFER」）
- スピーカーサイズの設定（「FRONT SPK」「CENTER SPK」「SURROUND SPK」「S BACK SPK」）
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定（「S BACK OUT」）
- スピーカーの距離設定（「DIST UNIT」「FRONT L DIST」「FRONT R DIST」「CENTER DIST」「SURR L DIST」「SURR R DIST」「S BACK L DIST」「S BACK R DIST」）

あらかじめスピーカー簡単設定(➡ ***24*** ページ)をおこなっている場合は、これらの設定は必要ありません。

サブウーハーの設定

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURROUND SPK ↔ S BACK SPK ↔ S BACK OUT ↔
DIST UNIT ↔ FRONT L DIST ↔ FRONT R DIST ↔
CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔
S BACK L DIST ↔ S BACK R DIST ↔

サブウーハーを使用するかどうかを設定します。

SUBWOOFER

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

SUBWFR <YES>

YES ↔ NO

YES	：サブウーハーを使用するときに選びます。表示窓の S.WFR 表示が点灯します。サブウーハーの出力レベルが調節できるようになります。
NO	：サブウーハーを使用しないときに選びます。[お買い上げ時の設定]

スピーカーサイズの設定

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURROUND SPK ↔ S BACK SPK ↔ S BACK OUT ↔
DIST UNIT ↔ FRONT L DIST ↔ FRONT R DIST ↔
CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔
S BACK L DIST ↔ S BACK R DIST ↔

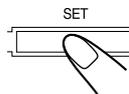
お使いのスピーカー(フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー)について、使用するかどうか、また使用する場合、スピーカーユニットのサイズを設定します。

- はじめに、設定するスピーカーを選びます。

例：センタースピーカーを選んだ場合

CENTER SPK

FRONT SPK	：フロントスピーカーの設定をします。
CENTER SPK	：センタースピーカーの設定をします。
SURROUND SPK	：サラウンドスピーカーの設定をします。
SURR BACK SPK	：サラウンドバックスピーカーの設定をします。

- 次に、スピーカーのサイズを選びます。

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

お使いのスピーカーに内蔵されているユニットの口径に合わせてサイズを選びます。

CENTER <SML>

LRG ↔ SML ↔ NO ↔（始めに戻る）

LRG（ラージ）	：スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。[「FRONT SPK」のお買い上げ時の設定]
SML（スモール）	：スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。[「FRONT SPK」以外のお買い上げ時の設定]
NO	：スピーカーを接続していないときに選びます。• 「FRONT SPK」では選べません

ご注意

- サブウーハーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーは「LRG」に設定されます。
- フロントスピーカーを「SML」に設定したときは、その他のスピーカーを「LRG」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「SML」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーを「LRG」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーは「NO」に設定されます。

詳細なスピーカー設定(つづき)

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を設定します。

S BACK OUT

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

SB OUT <1SPK>

1SPK: サラウンドバックスピーカーを1本使うときに選びます。

2SPK: サラウンドバックスピーカーを2本使うときに選びます。 [お買い上げ時の設定]

ご注意

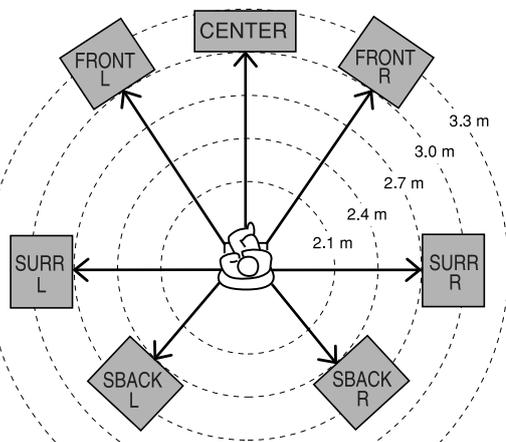
- サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを「NO」に設定しているときは(➡ *27* ページ)、この設定をすることはできません。
- サラウンドバックスピーカーの設定を「1SPK」にすると、サラウンドバックスピーカー右・R端子に接続したスピーカーからは音声が出力されません。

スピーカーの距離設定

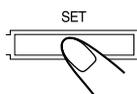
Dolby Digital、DTSで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離にばらつきがある場合に、各スピーカーとリスニングポジションの距離を設定することができます。

- 音の到達時間は、**30cmの差で約0.001秒**変わります。
- 距離設定の単位は、**メートル**(meter)と**フィート**(feet)から選べます。
- 設定できる距離は、「**0.3m**(1フィート)」から「**9.0m**(30フィート)」までで、単位は**0.3m**(1フィート)きざみです。
- スピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているスピーカーは(➡ *27* ページ)、距離の設定をすることができません。

例: 下図のようにスピーカーを配置したときは、左右のフロントスピーカーとセンタースピーカーを「3.0m」に、左右のサラウンドスピーカーを「2.7m」に、左右のサラウンドバックスピーカーを「2.4m」に設定します。表示窓には次のように表示されます。

左フロントスピーカー	:「FRONT L<3.0m>」
右フロントスピーカー	:「FRONT R<3.0m>」
センタースピーカー	:「CENTER <3.0m>」
左サラウンドスピーカー	:「SURR L <2.7m>」
右サラウンドスピーカー	:「SURR R <2.7m>」
左サラウンドバックスピーカー	:「SBACK L<2.4m>」
右サラウンドバックスピーカー	:「SBACK R<2.4m>」

距離設定の単位を設定する

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURROUND SPK ↔ S BACK SPK ↔ S BACK OUT ↔
DIST UNIT ↔ FRONT L DIST ↔ FRONT R DIST ↔
CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔
S BACK L DIST ↔ S BACK R DIST ↔

DIST UNIT

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

D UNIT<meter>

meter ↔ feet

meter	設定する距離をメートル単位で表します。[お買い上げ時の設定]
feet	設定する距離をフィート単位で表します。

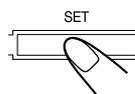
＊本書では、距離の単位としてメートルを使用します。

リスニングポジションと各スピーカー間の距離を設定する

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURROUND SPK ↔ S BACK SPK ↔ S BACK OUT ↔
DIST UNIT ↔ FRONT L DIST ↔ FRONT R DIST ↔
CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔
S BACK L DIST ↔ S BACK R DIST ↔

各スピーカーの距離を「0.3m」から「9.0m」の間で設定します。 [お買い上げ時の設定：3.0m]

例：センタースピーカーの距離を設定する場合

CENTER DIST

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

CENTER <3.0m>

0.3m ↔ 9.0m

FRONT L DIST	：左フロントスピーカーの距離を設定します。
FRONT R DIST	：右フロントスピーカーの距離を設定します。
CENTER DIST	：センタースピーカーの距離を設定します。
SURR L DIST	：左サラウンドスピーカーの距離を設定します。
SURR R DIST	：右サラウンドスピーカーの距離を設定します。
S BACK L DIST	：左サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。
S BACK R DIST	：右サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。
S BACK DIST	：サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数が「1SPK」に設定されているとき、サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。

ご注意

スピーカーサイズ設定を「NO」に設定しているスピーカーは（➡ *27* ページ）、距離の設定をすることができません。

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする(つづき)

7.1チャンネルサラウンドの設定

EX/ES/PLIIx ↔ DUAL MONO ↔ SUBWOOFER OUT ↔
CROSSOVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT MODE ↔
DIGITAL IN 1 ↔ DIGITAL IN 2 ↔ DIGITAL IN 3 ↔
DVD VIDEO IN ↔ VTR VIDEO IN ↔ DBS VIDEO IN

7.1チャンネルサラウンドの動作を設定します。

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

AUTO ➔ ON ➔ PLⅡx MOVIE ➔ PLⅡx MUSIC ➔ OFF ➔(始めに戻る)

AUTO(オート)	:Dolby Digital Surround EX信号またはDTS-ES信号が入力されたときのみ、7.1チャンネルサラウンドで再生します。4チャンネル以上の音声信号が入力されたときは、5.1チャンネルで再生します。[お買い上げ時の設定]
ON	:5.1チャンネルまたは6.1チャンネルの音声が入力されたとき、7.1チャンネルサラウンドで再生します。
PLIIx MOVIE(ムービー)	:5.1チャンネルまたは6.1チャンネルのデジタル音声信号に、PLIIx MOVIEの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
PLIIx MUSIC(ミュージック)	:5.1チャンネルまたは6.1チャンネルのデジタル音声信号に、PLIIx MUSICの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
OFF	:7.1チャンネルサラウンドで再生しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1チャンネルサラウンドまでの再生になります。

- スピーカーサイズ設定でサラウンドスピーカーが「NO」のときは(➡ *27* ページ)、この設定をすることはできません。
- サラウンドを使用しているときにこの設定を切り換えると、サラウンドモードが切り換わることがあります。
- 設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ソフトによってはDolby Digital Surround EX信号の7.1チャンネルサラウンド再生ができないことがあります。このような場合は「**ON**」に設定してください。

バーチャルサラウンドバックについて

サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「NO」に設定している場合でも(➡ *27* ページ)、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバック音声信号を再生できます。詳しくは*44* ページをご覧ください。

デュアルモノの設定

EX/ES/PLIIx ↔ DUAL MONO ↔ SUBWOOFER OUT ↔
CROSSOVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT MODE ↔
DIGITAL IN 1 ↔ DIGITAL IN 2 ↔ DIGITAL IN 3 ↔
DVD VIDEO IN ↔ VTR VIDEO IN ↔ DBS VIDEO IN

デュアルモノ(Dual Mono)信号は、左右に異なる音声を持ったデジタル2チャンネル信号です。チャンネルの再生方法を設定します。

DUAL MONO

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

D MONO <MAIN>

MAIN ↔ SUB ↔ ALL ↔(始めに戻る)

MAIN(メイン)	:メインチャンネル(ch1)を選びます。デュアルモノ信号が入力されると、入力音声信号表示の「**L**」が点灯します。[お買い上げ時の設定]
SUB(サブ)	:サブチャンネル(ch2)を選びます。デュアルモノ信号が入力されると、入力音声信号表示の「**R**」が点灯します。
ALL(オール)	:両方のチャンネルを選びます。デュアルモノ信号が入力されると、入力音声信号表示の「**L**」と「**R**」が点灯します。

- デュアルモノ音声は通常、左右フロントスピーカー、センタースピーカーから聞こえます。サラウンドの「**入/切**」によって、聞こえるスピーカーが違います。

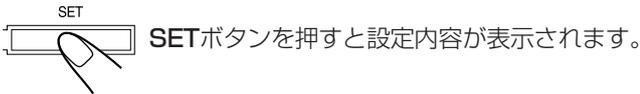
デュアルモノ設定	サラウンド「切」		サラウンド再生中				
			センタースピーカー設定				
			SML/LRG			NO	
	L	R	L	C	R	L	R
MAIN	ch1	ch1	—	ch1	—	ch1	ch1
SUB	ch2	ch2	—	ch2	—	ch2	ch2
ALL	ch1	ch2	—	ch1+ch2	—	ch1+ch2	ch1+ch2

サブウーハーの出力設定

EX/ES/PLIIx ↔ DUAL MONO ↔ SUBWOOFER OUT ↔
CROSSOVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT MODE ↔
DIGITAL IN 1 ↔ DIGITAL IN 2 ↔ DIGITAL IN 3 ↔
DVD VIDEO IN ↔ VTR VIDEO IN ↔ DBS VIDEO IN

サブウーハーから、LFE(Low Frequency Effect：低域効果音)信号に加えてフロントスピーカーの低音域の信号を出力するかどうかを設定します。

SUBWOOFER OUT

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

SW <LFE >

LFE ↔ LFE＋MAIN

LFE	：LFE信号と、スピーカーサイズ設定で「**SML**」に設定されたスピーカーの低音域の信号を出力します。 [お買い上げ時の設定]
LFE＋MAIN	：「**LFE**」を選んだときの機能に加えて、LFE信号が無いときに、フロントスピーカーの低音域の信号を出力します。

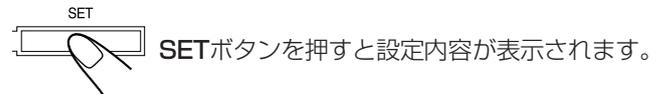
- サブウーハーの設定を「**NO**」にしているときは、この設定をすることはできません。(➡ ***27*** ページ)

クロスオーバー周波数の設定

EX/ES/PLIIx ↔ DUAL MONO ↔ SUBWOOFER OUT ↔
CROSSOVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT MODE ↔
DIGITAL IN 1 ↔ DIGITAL IN 2 ↔ DIGITAL IN 3 ↔
DVD VIDEO IN ↔ VTR VIDEO IN ↔ DBS VIDEO IN

小型のスピーカーでは低音を効果的に再生できない場合があります。本機では、いずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音域の信号を他の大型のスピーカーやサブウーハーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型のスピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

CROSSOVER

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

CROSS < 80Hz>

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音域の信号は損なわれにくくなります。下記の表を参考に設定してください。

80Hz	：スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。
100Hz	：スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]
120Hz	：スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。
150Hz	：スピーカーの口径が6cm程度のとき選びます。
200Hz	：スピーカーの口径が5cm程度のとき選びます。

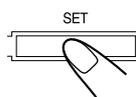
- スピーカーサイズ設定(➡ ***27*** ページ)で、すべてのスピーカーを「**LRG**」に設定しているときは、表示窓に「**CROSS OFF**」と表示され、この機能は働きません。
- ヘッドホンを使用しているときは、この機能は働きません。

低音域のレベル設定

Dolby Digital、DTS音声の再生中に、低音がひずむとき設定します。
- この機能はサブウーハーの設定で「YES」を設定し(➡ ***27*** ページ)、LFE信号が入力されているときに働きます。

0dB	：通常はこちらを選びます。 [お買い上げ時の設定]
−10dB	：低音域がひずむときに選びます。

ミッドナイトモードの設定

ダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよく音声を楽しめます。
- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、音声を楽しみたいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
1	：ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	：ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます。(夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます)

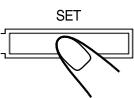
- ミッドナイトモードを使用しているとき、表示窓のMIDNIGHT表示が点灯します。
- リモコンの**ミッドナイト**ボタンを押して設定することもできます。(➡ ***47*** ページ)
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

デジタル入力端子のソース(音源)名の割り当て

EX/ES/PLIIx ⟷ DUAL MONO ⟷ SUBWOOFER OUT ⟷
CROSSOVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT MODE ⟷
DIGITAL IN 1 ⟷ DIGITAL IN 2 ⟷ DIGITAL IN 3 ⟷
DVD VIDEO IN ⟷ VTR VIDEO IN ⟷ DBS VIDEO IN

3つのデジタル入力端子(DIGITAL IN1〜3)のソース(音源)名を、接続した機器にあわせて設定します。

例:「DIGITAL IN 1」を設定する場合

DIGITAL IN 1

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

D 1 <DVR/DVD>

DVR/DVD	:DVD レコーダー/プレーヤーを接続したときに選びます。 [DIGITAL IN 1のお買い上げ時の設定]
DBS	:地上デジタル/BS/CSチューナーを接続したときに選びます。 [DIGITAL IN 2のお買い上げ時の設定]
VTR	:ビデオデッキを接続したときに選びます。 [DIGITAL IN 3のお買い上げ時の設定]
TV	:テレビを接続したときに選びます。

お知らせ

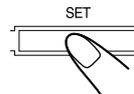
「DIGITAL IN 1」に設定したソース(音源)名を「DIGITAL IN 2」および「DIGITAL IN 3」で設定することはできません。また、「DIGITAL IN 1」および「DIGITAL IN 2」に設定したソース(音源)名を「DIGITAL IN 3」で設定することはできません。

映像接続の種類の設定

EX/ES/PLIIx ⟷ DUAL MONO ⟷ SUBWOOFER OUT ⟷
CROSSOVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT MODE ⟷
DIGITAL IN 1 ⟷ DIGITAL IN 2 ⟷ DIGITAL IN 3 ⟷
DVD VIDEO IN ⟷ VTR VIDEO IN ⟷ DBS VIDEO IN

DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、地上デジタル/BS/CSチューナーの映像接続の種類を設定します。

例:DVDレコーダー/プレーヤーの映像接続の種類を設定する場合

DVD VIDEO IN

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

DVD <S/C>

CMPNT ⟷ S/C

・ DVDレコーダー/プレーヤーを接続するとき

DVD<S/C>	:DVDレコーダー/プレーヤーをS映像端子または映像端子(コンポジット端子)に接続したときに選びます。
DVD<CMPNT>	:DVDレコーダー/プレーヤーをD4映像端子に接続したときに選びます。 [お買い上げ時の設定]

・ ビデオデッキを接続するとき

VTR<S/C>	:ビデオデッキをS映像端子または映像端子(コンポジット端子)に接続したときに選びます。
VTR<CMPNT>	:ビデオデッキをD4映像端子に接続したときに選びます。 [お買い上げ時の設定]

・ 地上デジタル/BS/CSチューナーを接続するとき

DBS<S/C>	:地上デジタル/BS/CSチューナーをS映像端子または映像端子(コンポジット端子)に接続したときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
DBS<CMPNT>	:地上デジタル/BS/CSチューナーをD4映像端子に接続したときに選びます。

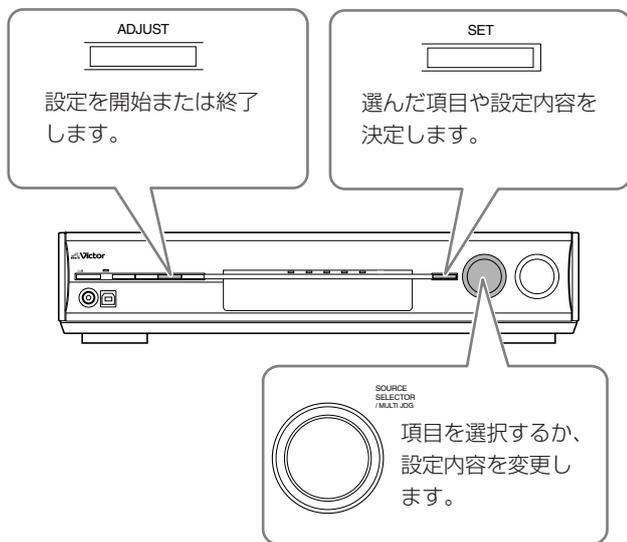
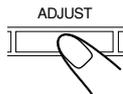
・ ビデオデッキと地上デジタル/BS/CSチューナーを同時に「CMPNT」に設定することはできません。「VTR VIDEO IN」と「DBS VIDEO IN」のどちらかで「CMPNT」を選ぶと、もう一方は「S/C」に設定されます。

音量/音質の調節をする

次の項目について設定します。
- スピーカー出力レベルの調節（「SUBWFR LVL」「FRONT L LVL」「FRONT R LVL」「CENTER LVL」「SURR L LVL」「 SURR R LVL」「S BACK LVL」「S BACK L LVL」「S BACK R LVL」）
- イコライザーの調節（「D EQ」）
- 低音の強調（「BASS BOOST」）
- インプットアッテネーター（「INPUT ATT」）
- エフェクトの調節（「EFFECT」）
- 反射音の遅延調節（「ROOM SIZE」）
- 反射音の減衰調節（「LIVENESS」）
- パノラマ機能（「PANORAMA」）
- センターチャンネルの広がり調節（「CENTER WIDTH」）
- 音声の定位調節（「DIMENSION」）
- センターチャンネルの定位調節（「CENTER GAIN」）
- センタートーンの調節（「CENTER TONE」）
- センターチャンネルの定位補正（「CENTER ALIGN」）

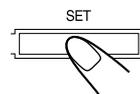
操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース（音源）表示に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 ADJUSTボタンを押す

2 MULTI JOGを回して設定する項目を選ぶ

MULTI JOGを回すと
下図のように設定項目が変わります。

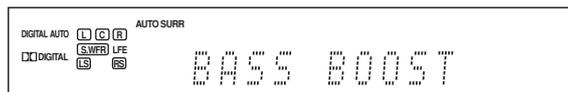
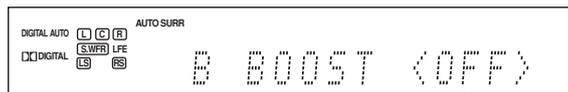
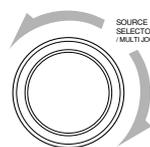
* サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を「1SPK」に設定しているときは（➡ *28* ページ）、「S BACK LVL」と表示されます。

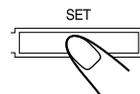
3 SETボタンを押す

- 選んだ項目の現在の設定内容が表示されます。

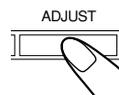
例：「BASS BOOST」を選んだ場合

DIGITAL AUTO　AUTO SURR　DIGITAL　BASS BOOST

4 MULTI JOGを回して設定する値を選ぶ

DIGITAL AUTO　AUTO SURR　DIGITAL　B BOOST <OFF>

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください。（➡ *35*～*38* ページ）

5 SETボタンを押す

- 他の項目も設定するときは、手順**2**～**5**をくり返します。

6 ADJUSTボタンを押す

設定前のソース（音源）表示に戻ります。

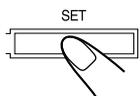
スピーカー出力レベルの調節

SUBWFR LVL ↔ FRONT L LVL ↔ FRONT R LVL ↔
CENTER LVL ↔ SURR L LVL ↔ SURR R LVL ↔
S BACK L LVL ↔ S BACK R LVL ↔ D EQ 63Hz ↔

- あらかじめスピーカー簡単設定(➡ **24** ページ)をおこなっている場合は、この設定は必要ありません。

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

例:「SUBWFR LVL」を設定する場合

SUBWFR LVL

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

SUBWFR LVL(レベル)	: サブウーハーの出力レベルを調節します。
FRONT L LVL	: 左フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
FRONT R LVL	: 右フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
CENTER LVL	: センタースピーカーの出力レベルを調節します。
SURR L LVL	: 左サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
SURR R LVL	: 右サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK L LVL	: 左サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK R LVL	: 右サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK LVL	: サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を「1SPK」に設定しているとき、サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。

[お買い上げ時の設定: 0(dB)]

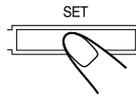
- 「−10」から「+10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- リスニングポジションで各スピーカーの音を聞きながら、どのスピーカーからも同じ程度の音量で聞こえるように調節します。テストトーンを聞きながら、リモコンで調節することもできます。(➡ ***45*** ページ)
- スピーカーサイズ設定で「NO」に設定しているスピーカーは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- ヘッドホンを使用しているときは、左右フロントスピーカーのみを調節できます。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

イコライザーの調節

S BACK L LVL ↔ S BACK R LVL ↔ D EQ 63Hz ↔
D EQ 250Hz ↔ D EQ 1kHz ↔ D EQ 4kHz ↔
D EQ 16kHz ↔ BASS BOOST ↔ INPUT ATT ↔

中心となる周波数帯域のレベルを調節し、お好みの音質でお楽しみいただけます。

- 調節できる周波数:63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

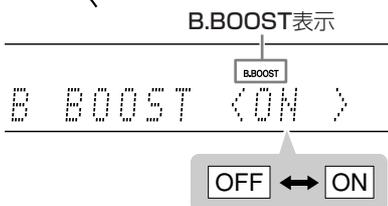
例:「DIGITAL EQ 63Hz」を設定する場合

[お買い上げ時の設定: 0]

- 「−8」から「+8」の範囲で2dB単位で調節できます。
- いずれかの周波数特性を「0」以外の値に調節すると、表示窓の**DIGITAL EQ**表示が点灯します。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。
- リモコンの**D.EQ周波数**ボタンを押して調節することもできます。(➡ ***46*** ページ)

音量/音質の調節をする(つづき)

低音の強調(バスブースト)

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

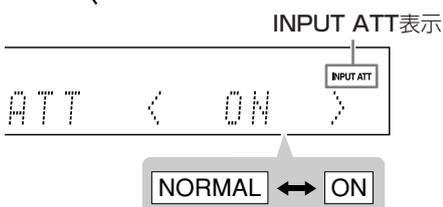
SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

OFF：ソース(音源)本来の低音を再生します。
[お買い上げ時の設定]

ON：低音を増強します。表示窓のB.BOOST表示が点灯します。

- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。
- リモコンの**バスブースト**ボタンを押して設定することもできます。(➡ ***46*** ページ)

インプットアッテネーター

アナログ入力時にソース(音源)の信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

NORMAL：通常はこの状態で使用します。アナログ入力信号を調節しません。　[お買い上げ時の設定]

ON：入力信号を調節して音のひずみを軽減します。表示窓のINPUT ATT表示が点灯します。

- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

エフェクトの調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***41*** ページ)の動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

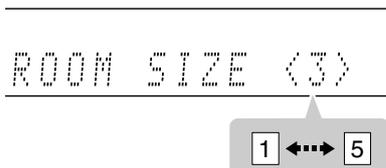
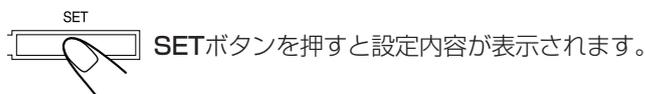
[お買い上げ時の設定: 3]

- 「1」から「5」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると効果は大きくなります。
- 設定された内容はそれぞれのモードごとに記憶されます。
- リモコンの**エフェクト**ボタンを押して調節することもできます。(➡ ***46*** ページ)

反射音の遅延調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***41*** ページ)の動作中に、仮想空間の大きさを調節することができます。

ROOM SIZE

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「1」から「5」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると反射音の到達時間が遅くなり、より大きな空間での音響効果を演出します。
- サラウンドスピーカーのスピーカーサイズ設定を「NO」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- 設定された内容はそれぞれのモードごとに記憶されます。

反射音の減衰調節

EFFECT ↔ ROOM SIZE ↔ **LIVENESS** ↔
PANORAMA ↔ CENTER WIDTH ↔ DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔ CENTER TONE ↔ CENTER ALIGN ↔

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***41*** ページ)の動作中に、仮想空間の反響率を調節することができます。

LIVENESS

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

LIVENESS <3>

1 ↔ 5

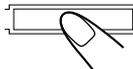
[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**5**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると反射音の減衰が抑えられ、より響きの大きな音響効果を演出します。
- サラウンドスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- 設定された内容はそれぞれのモードごとに記憶されます。

パノラマ機能

EFFECT ↔ ROOM SIZE ↔ LIVENESS ↔
PANORAMA ↔ CENTER WIDTH ↔ DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔ CENTER TONE ↔ CENTER ALIGN ↔

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***40*** ページ)を動作させて再生しているときに、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

PANORAMA

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

PANORAMA<OFF>

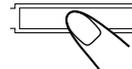
OFF	:通常の音声で再生します。　[お買い上げ時の設定]
ON	:音声が回り込んでくるような効果を強調します。

- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

センターチャンネルの広がり調節

EFFECT ↔ ROOM SIZE ↔ LIVENESS ↔
PANORAMA ↔ **CENTER WIDTH** ↔ DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔ CENTER TONE ↔ CENTER ALIGN ↔

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***40*** ページ)を動作させて再生しているときに、センタースピーカー音声の広がりの度合いを調節することができます。

CENTER WIDTH

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

C WIDTH < 3 >

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**7**」の範囲で1単位で調節できます。
- 「**OFF**」または数字が小さいほど、中央にまとまって聞こえます。
- センタースピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

音声の定位調節

EFFECT ↔ ROOM SIZE ↔ LIVENESS ↔
PANORAMA ↔ CENTER WIDTH ↔ **DIMENSION** ↔
CENTER GAIN ↔ CENTER TONE ↔ CENTER ALIGN ↔

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***40*** ページ)を動作させて再生しているときに、音声の定位を前後に調節することができます。

DIMENSION

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

DIMENSION <4>

1 ↔ 7

[お買い上げ時の設定: 4]

- 「**1**」から「**7**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると、より前方に定位します。
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

音量/音質の調節をする(つづき)

センターチャンネルの定位調節

EFFECT ↔	ROOM SIZE ↔	LIVENESS ↔
PANORAMA ↔	CENTER WIDTH ↔	DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔	CENTER TONE ↔	CENTER ALIGN ↔

DTS Neo:6 Music(➡ ***40*** ページ)の動作中に、センタースピーカー音声の定位を調節することができます。

CENTER GAIN

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 0.3]

- 「**0**」から「**1.0**」の範囲で0.1単位で調節できます。
- 数値が大きくなると、センタースピーカーの音がより中央にまとまって聞こえます。
- センタースピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

センタートーンの調節

EFFECT ↔	ROOM SIZE ↔	LIVENESS ↔
PANORAMA ↔	CENTER WIDTH ↔	DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔	**CENTER TONE** ↔	CENTER ALIGN ↔

サラウンドモードおよびDSPモード(➡ ***40***、***41*** ページ)の動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

CENTER TONE

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**5**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。
- センタースピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- センタートーンが「**3**」以外のときに表示窓の**C.TONE**表示が点灯します。
- 設定された内容は、サラウンドモードではすべてのモードで共通に、DSPモードではそれぞれのモードごとに記憶されます。
- リモコンの**センタートーン**ボタンを押して調節することもできます。(➡ ***47*** ページ)

センターチャンネルの定位補正

EFFECT ↔	ROOM SIZE ↔	LIVENESS ↔
PANORAMA ↔	CENTER WIDTH ↔	DIMENSION ↔
CENTER GAIN ↔	CENTER TONE ↔	**CENTER ALIGN** ↔

PLIIx Music、PLII Music、DTS Neo:6 Music、ALL CH STEREO、MONO FILM以外のサラウンドモードおよびDSPモード(➡ ***40***、***41*** ページ)の動作中に、センターチャンネルの上下の定位を補正することができます。

CENTER ALIGN

SETボタンを押すと設定内容が表示されます。

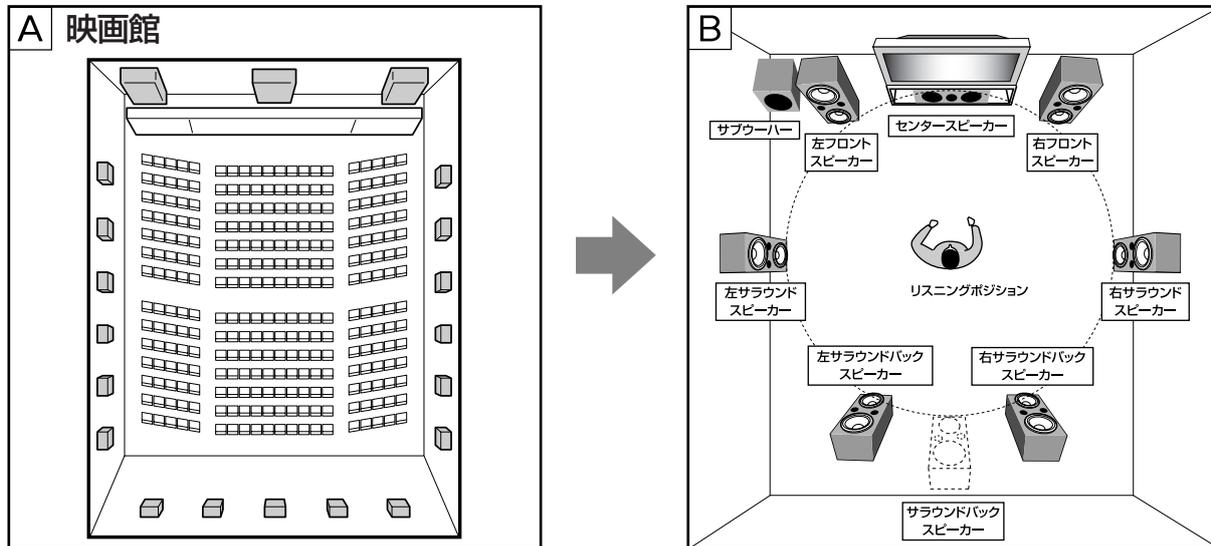
OFF：通常はこの状態で使用します。 [お買い上げ時の設定]

ON ：センターチャンネル音声の上下の定位を補正するときに選びます。

- センタースピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- 設定された内容は、サラウンドモードではすべてのモードで共通に、DSPモードではそれぞれのモードごとに記憶されます。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。(図A)このような音声の効果をサラウンドと呼びます。
映画館では、客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。
本機は、7つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。(図B)

サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
• サブウーハーの設定(➡ ***27*** ページ)　• スピーカーサイズの設定(➡ ***27*** ページ)　• スピーカーの距離設定(➡ ***28*** ページ)

3D PHONICについて

本機では、フロントスピーカー以外のスピーカー設置数が少ないときでも、設置数に合わせたサラウンドをお楽しみいただけます。本機内蔵の3D PHONIC(フォニック)回路が、フロントスピーカーだけの構成でもサラウンドに近い効果をつくりだします。
- オールチャンネルステレオ(➡ ***41*** ページ)のときは、3D PHONIC回路は働きません。

3D PHONIC回路は次の場合に働きます。
- サラウンドスピーカーのスピーカーサイズ設定を「NO」に設定している場合
- フロントスピーカー以外のスピーカーサイズ設定を「NO」に設定しているときに、Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC信号向けのサラウンドモードを選んだ場合

3D PHONIC回路の動作中は、表示窓の**3D-PHONIC**表示が点灯します。

サラウンド

音声信号の種類

本機では、次の入力信号に対してサラウンドを使うことができます。
● **アナログ音声信号**(本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。)
● **デジタル音声フォーマット**(本機とデジタル接続したソース(音源)機器からの信号です。)
- リニアPCM：DVD、CDなどで使われている2ch音声信号です。表示窓の**LINEAR PCM**表示が点灯します。
- Dolby Digitalソフト：表示窓のDD DIGITAL表示が点灯します。
  - Dolby Digital：最も普及したマルチチャンネル信号のひとつで、1chから5.1chまで対応します。
  - Dolby Digital Surround EX：5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1chの信号です。
- DTSソフト：表示窓のdts表示が点灯します。
  - DTS：DVD、CD、LD など多様なメディアで使用されているマルチチャンネル信号です。1chから5.1chまで対応します。
  - DTS 96/24：サンプリングレート96kHz/量子化ビット数24bitの高音質音声信号です。表示窓の**96/24**表示が点灯します。
  - DTS-ES Matrix/Discrete：5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1chの信号です。マトリクス処理をしたMatrix信号と、マトリクス処理なしのDiscrete信号があります。
- MPEG-2 AAC：地上デジタルテレビ放送やBSデジタル放送で使われている5.1chまでの音声信号です。表示窓の**MPEG-2 AAC**表示が点灯します。

Dual Mono信号について

左右に異なる音声を持った2ch信号です。この信号を再生すると、表示窓の**DUAL MONO**表示が点灯します。

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドモード

「 」内は、本体表示窓に表示されるモード名です。

● Dolby Digital＊1ソフト向けのサラウンドモード

• Dolby Digital EX
「DOLBY D EX」：Dolby Digital Surround EX信号または4ch以上のDolby Digital信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。

• Dolby Digital
「DOLBY DIGITAL」：Dolby Digital信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。

• Dolby Pro Logic IIx Movie/Dolby Pro Logic IIx Music/Dolby Pro Logic IIx Game
「PLIIx MOVIE/PLIIx MUSIC/PLIIx GAME」
：映画ソフトや音楽ソフト、ゲームソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。7.1chサラウンド再生が可能です。表示窓のDD PLIIx表示が点灯します。

• Dolby Pro Logic II Movie/Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic II Game
「PLII MOVIE/PLII MUSIC/PLII GAME」
：映画ソフトや音楽ソフト、ゲームソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。表示窓のDD PLII表示が点灯します。

● DTS＊2ソフト向けのサラウンドモード

• DTS-ES Discrete
「DTS-ES DSCRT」：DTS-ES Discrete信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。

• DTS-ES Matrix
「DTS-ES MATRIX」：DTS-ES Matrix信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。

• DTS Surround
「DTS SURROUND」
：2ch以外のDTSソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。

• DTS Neo:6 Cinema/Music
「NEO:6 CINEMA/NEO:6 MUSIC」
：映画ソフトや音楽ソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
表示窓のNEO:6表示が点灯します。

● MPEG-2 AAC＊3向けのサラウンドモード

• AAC
「AAC SURROUND」
：AAC信号（地上デジタルテレビ放送やBSデジタル放送など）向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
表示窓のMPEG-2 AAC表示が点灯します。

• サラウンドモードの選びかたは***42***ページ、選べるサラウンドモードについては***43***ページをご覧ください。

＊1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

＊2 DTS、DTS-ES、Neo:6、DTS 96/24およびDTS Digital Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

＊3 米国パテントナンバー

5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433
5,222,189	5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,583,962	5,274,740	5,633,981	5 297 236
4,914,701	5,235,671	07/640,550	5,579,430
08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874
98/03036	5,227,788	5,285,498	5,481,614
5,592,584	5,781,888	08/039,478	08/211,547
5,703,999	08/557,046	08/894,844	5,299,238
5,299,239	5,299,240	5,197,087	5,490,170
5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654
5,548,574	5,717,821		

DSPモード

本機搭載のDSP(デジタルシグナルプロセッサー)により、次のモードをお楽しみいただけます。

● DAP(デジタルアコースティックプロセッサー)モード

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出し、コンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

表示窓の**DSP**表示が点灯します。

- DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
- DAPモードが動作中は、音響効果の度合い(エフェクトレベル)、反射音の遅延時間、反射音の減衰レベルが調節できます。(➡ ***36***、***37***、***46*** ページ)

音場の構成

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

- HALL(ホール)1/2 : クラシック音楽用コンサートホールの音響効果を再現します。ホールの形状による音質の違いで「1」と「2」があります。
- LIVE(ライブ) CLUB(クラブ) : 小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。
- DANCE(ダンス) CLUB(クラブ) : 天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。
- PAVILION(パビリオン) : パビリオンなど広い空間の音響効果を再現します。
- THEATER(シアター)1/2 : 映画館の音響効果を再現します。映画館の大きさによる音質の違いで「1」と「2」があります。2ch音声で選んだときは、Dolby Pro Logic IIが動作し、表示窓のDD PL II表示が点灯します。

● Mono Film

アナログ、Dual Mono、2chデジタル信号向けのモードです。左右の音声を選択して聞くことができます。

表示窓の**DSP**表示が点灯します。

● オールチャンネルステレオ (ALL CH STEREO)

接続、設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーまたはサラウンドバックスピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。

表示窓の**DSP**表示が点灯します。

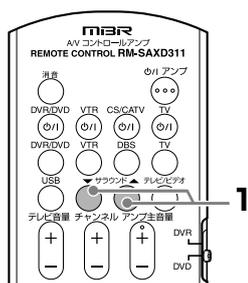
- オールチャンネルステレオはアナログ2ch信号や2chのリニアPCMデジタル音声信号を再生するときに使うと効果的です。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドモード、DSPモードの使いかた

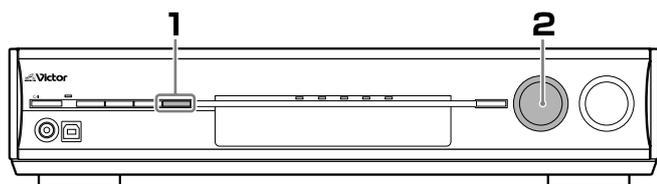
接続しているスピーカーの数や入力音声信号、スピーカー設定によって選べるサラウンドモード、DSPモードは異なります。
- サラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続し、適切に設定する必要があります。
- マルチチャンネル（3ch以上）の音声信号については、スピーカーの配置数（3ch以上）に関係なく選べます。
- お買い上げ時の設定は「AUTO SURROUND」です。詳しくは下記の「オートサラウンドについて」をご覧ください。
- サラウンドモード、DSPモードを選んだあとの音量/音質の調節については、***45***〜***47*** ページをご覧ください。
- 設定された内容は、ソース（音源）ごとに記憶されます。

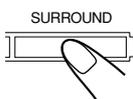
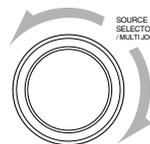
サラウンドモード、DSPモードを選ぶ

リモコンから

1 サラウンド▲/▼ボタンをくり返し押して、サラウンドモード、DSPモードを選ぶ

ボタンを押すごとにサラウンドモード、DSPモードが次のように切り換わります。

AUTO SURROUND
⇕
選択できるサラウンドモード（➡ ***43***、***44*** ページ）
⇕
選択できるDSPモード（➡ ***41***、***44*** ページ）
⇕
SURROUND OFF
⇕
始めに戻る

本体から

1 SURROUNDボタンを押す

MULTI JOGがサラウンドモード、DSPモード設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGを回してサラウンドモード、DSPモードを選ぶ

MULTI JOGを回すごとにサラウンドモード、DSPモードが次のように切り換わります。

AUTO SURROUND
⇕
選択できるサラウンドモード（➡ ***43***、***44*** ページ）
⇕
選択できるDSPモード（➡ ***41***、***44*** ページ）
⇕
SURROUND OFF
⇕
始めに戻る

- 手順**1**のあとしばらく何も操作しないでいると、ソース（音源）表示に戻ります。そのときは、手順**1**からやり直してください。

オートサラウンドについて

「AUTO SURROUND」（オートサラウンド）を選ぶと、入力音声に応じたサラウンドモードが自動的に選ばれます。表示窓にAUTO SURR表示が点灯します。

オートサラウンドは次のように働きます。
- 2ch以外のデジタル音声信号が入力されたときは、その音声信号に対応するサラウンドモードが選ばれます。
- マトリクス処理された2chのDolby Digital音声信号が入力されたときは、「PLIIx MOVIE」または「PLII MOVIE」が選ばれます。
- 2chの信号とリニアPCM信号が入力されたときは、「SURROUND OFF」が選ばれ、ステレオになります。

アナログ音声が入力されているときと、手動でデジタル音声フォーマット（「DOLBY DIGITAL」、「DTS」、「MPEG-2 AAC」）を選んでいるときは（➡ ***23*** ページ）、オートサラウンドは働きません。

お知らせ

サラウンドモード、DSPモード使用時にヘッドホンをお使いになると、「3D HEADPHONE」モードになります。表示窓のDSP表示とHEADPHONE表示が点灯し、一時的に「3D HEADPHONE」と表示されます。

サラウンドモード

EX/ES/PLIIx設定、入力音声信号、スピーカー設定などによって選べるサラウンドモードは異なります。詳しくは以下の表をご覧ください。

- モード名の横の数値は各入力信号のチャンネル構成を表しています。
  3/2 = L/R/C/SL/SR、2/2 = L/R/SL/SR、3/1 = L/R/C/S、2/1 = L/R/S、3/0 = L/R/C、1/0 = C、
  2/0 = L/R

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「2SPK」のとき

入力信号 ＼ EX/ES/PLIIx 設定	AUTO	ON	PLIIx MOVIE	PLIIx MUSIC	OFF
Dolby Digital Surround EX	DOLBY D EX*2	DOLBY D EX	□□D+PLIIxMOVIE	□□D+PLIIxMUSIC	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/2、2/2)	DOLBY DIGITAL	DOLBY D EX	□□D+PLIIxMOVIE	□□D+PLIIxMUSIC	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)	DOLBY DIGITAL				
Dolby Digital (Dual Mono)	DUAL MONO				
DTS-ES Discrete*1	DTS-ES DSCRT	DTS-ES DSCRT	DTS+PLIIxMOVIE	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS-ES Matrix*1	DTS-ES MATRIX	DTS-ES MATRIX	DTS+PLIIxMOVIE	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS (3/2、2/2)*1	DTS SURROUND	DTS+NEO:6	DTS+PLIIxMOVIE	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)	DTS SURROUND				
DTS (Dual Mono)	DUAL MONO				
MPEG-2 AAC (3/2、2/2)	AAC SURROUND	AAC+□□ EX	AAC+PLIIxMOVIE	AAC+PLIIxMUSIC	AAC SURROUND
MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)	AAC SURROUND				
MPEG-2 AAC (Dual Mono)	DUAL MONO				
Dolby Digital (2/0) DTS (2/0) MPEG-2 AAC (2/0) リニアPCM (2/0) アナログ	PLIIx MOVIE、PLIIx MUSIC、PLIIx GAME、 NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC				PLII MOVIE、 PLII MUSIC、 PLII GAME、 NEO:6 CINEMA、 NEO:6 MUSIC

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「1SPK」のとき

入力信号 ＼ EX/ES/PLIIx 設定	AUTO	ON	PLIIx MOVIE	PLIIx MUSIC	OFF
Dolby Digital Surround EX	DOLBY D EX*2	DOLBY D EX	DOLBY D EX	□□D+PLIIxMUSIC	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/2、2/2)	DOLBY DIGITAL	DOLBY D EX	DOLBY D EX	□□D+PLIIxMUSIC	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)	DOLBY DIGITAL				
Dolby Digital (Dual Mono)	DUAL MONO				
DTS-ES Discrete*1	DTS-ES DSCRT	DTS-ES DSCRT	DTS+□□ EX	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS-ES Matrix*1	DTS-ES MATRIX	DTS-ES MATRIX	DTS+□□ EX	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS (3/2、2/2)*1	DTS SURROUND	DTS+NEO:6	DTS+□□ EX	DTS+PLIIxMUSIC	DTS SURROUND
DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)	DTS SURROUND				
DTS (Dual Mono)	DUAL MONO				
MPEG-2 AAC (3/2、2/2)	AAC SURROUND	AAC+□□ EX	AAC+□□ EX	AAC+PLIIxMUSIC	AAC SURROUND
MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)	AAC SURROUND				
MPEG-2 AAC (Dual Mono)	DUAL MONO				
Dolby Digital (2/0) DTS (2/0) MPEG-2 AAC (2/0) リニアPCM (2/0) アナログ	PLIIx MOVIE、PLIIx MUSIC、PLIIx GAME、 NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC				PLII MOVIE、 PLII MUSIC、 PLII GAME、 NEO:6 CINEMA、 NEO:6 MUSIC

*1 DTS 96/24ソフトで96/24音声を聞くときは、EX/ES/PLIIx設定を「OFF」に設定してください。
*2 EX/ES/PLIIx設定を「AUTO」にしている場合でも、ソフトによってはサラウンドモードが「DOLBY DIGITAL」になることがあります。その場合は、EX/ES/PLIIxの設定を「ON」に設定してください。

次ページに続く

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドモード、DSPモードの使いかた（つづき）

サラウンドモード（つづき）

サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定が「NO」のとき

入力信号 ＼ EX/ES/PLIIx 設定	AUTO	ON	PLIIx MOVIE	PLIIx MUSIC	OFF
Dolby Digital Surround EX	DOLBY D EX*2 (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY D EX (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/2、2/2)	DOLBY DIGITAL	DOLBY D EX (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)	DOLBY DIGITAL				
Dolby Digital (Dual Mono)	DUAL MONO				
DTS-ES Discrete*1	DTS-ES DSCRT (バーチャルサラウンドバック)	DTS-ES DSCRT (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS-ES Matrix*1	DTS-ES MATRIX (バーチャルサラウンドバック)	DTS-ES MATRIX (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS (3/2、2/2)*1	DTS SURROUND	DTS+NEO:6 (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)	DTS SURROUND				
DTS (Dual Mono)	DUAL MONO				
MPEG-2 AAC (3/2、2/2)	AAC SURROUND	AAC+DD EX (バーチャルサラウンドバック)	AAC+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	AAC+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	AAC SURROUND
MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)	AAC SURROUND				
MPEG-2 AAC (Dual Mono)	DUAL MONO				
Dolby Digital (2/0) DTS (2/0) MPEG-2 AAC (2/0) リニアPCM (2/0) アナログ	PLII MOVIE、PLII MUSIC、PLII GAME、NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC				

*1 DTS 96/24ソフトで96/24音声を聞くときは、EX/ES/PLIIx設定を「**OFF**」に設定してください。

*2 EX/ES/PLIIx設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ソフトによってはサラウンドモードが「**DOLBY DIGITAL**」になることがあります。その場合は、EX/ES/PLIIxの設定を「**ON**」に設定してください。

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定している場合でも、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバックスピーカーを仮想的に再現し、再生することができます。（バーチャルサラウンドバック）

バーチャルサラウンドバック再生ができるのは、次の信号が入力されたときです。

- Dolby Digital Surround EX信号
- DTS-ES信号
- MPEG-2 AAC信号
- 4ch以上のDolby Digital SurroundまたはDTS信号

表示窓の**VIRTUAL SB**表示が点灯します。

DSPモード

DAPモードとオールチャンネルステレオ（**ALL CH STEREO**）はどの音声信号が入力されても選べます。

- サラウンドスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定しているときは（➡ ***27***ページ）、「**ALL CH STEREO**」は選べません。
- 3ch以上の音声信号が入力されているときは、「**MONO FILM**」は選べません。

音量/音質を調節する

サラウンドモード、DSPモードを選んだあと、音量や音質を調節することができます。ここでは、リモコンで調節できる設定について説明します。
本体を使っての操作方法は、「音量/音質の調節をする」(➡ ***34*** ページ)をご覧ください。
設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。そのときは最初から操作をやり直してください。

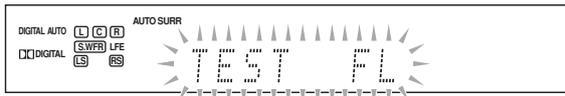
テストトーンによるスピーカー出力レベルの調節

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 テストトーンボタンを押す

テストトーン

スピーカーサイズ設定で「SML」または「LRG」に設定しているスピーカーから約2秒間ずつテストトーンが出力されます。
出力しているスピーカー名が点滅表示されます。

- テストトーンが出力される順序

3 調節するスピーカーの＋/－ボタンを押す

- ＋を押すと出力レベルが大きくなります。
- －を押すと出力レベルが小さくなります。
- 「－10」から「＋10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

[お買い上げ時の設定: 0dB]

フロント-左/右(＋/－)
：左右のフロントスピーカーの出力レベルを調節します。

センター(＋/－)
：センタースピーカーの出力レベルを調節します。

サラウンドバック-左/右(＋/－)
：左右のサラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。

サラウンド-左/右(＋/－)
：左右のサラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。

サブウーハー(＋/－)
：サブウーハーの出力レベルを調節します。

- **テストトーン**ボタンをもう一度押すとテストトーンが停止し、もとのソース(音源)表示に戻ります。
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を「1SPK」に設定しているときは(➡ ***28*** ページ)、**サラウンドバック-左(＋/－)**ボタンで調節してください。
- ヘッドホンを使用しているときはテストトーンは出力されません。
- 本体からの操作で調節をすることもできます。詳しくは「スピーカー出力レベルの調節」(➡ ***35*** ページ)をご覧ください。

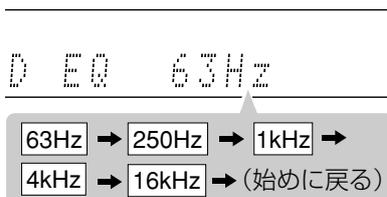
サラウンド

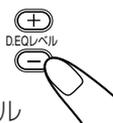
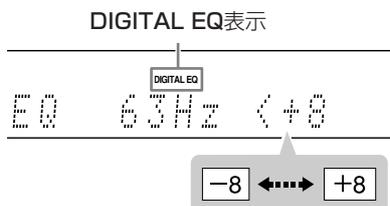
音量/音質を調節する（つづき）

イコライザーの調節

中心となる周波数帯域のレベルを調節し、お好みの音質でお楽しみいただけます。
- 調節できる周波数：63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

1 D.EQ周波数ボタンを押して調節したい周波数を表示させる

D.EQ周波数ボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

2 D.EQレベル＋/－ボタンを押す

+を押すとレベルが大きく、－を押すとレベルが小さくなります。

[お買い上げ時の設定: 0]

- いずれかの周波数特性を「0」以外の値に調節すると、表示窓のDIGITAL EQ表示が点灯します。
- 「－8」から「＋8」の範囲で2dB単位で調節できます。

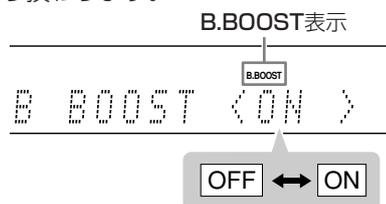
- 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。

低音の強調（バスブースト）

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 バスブーストボタンを押して調節する

バスブーストボタンを押すごとに、表示が次のように切り換わります。

ON ：低音を増強します。
表示窓のB.BOOST表示が点灯します。

OFF：ソース（音源）本来の低音を再生します。
[お買い上げ時の設定]

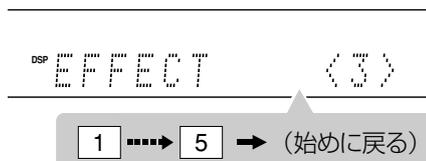
- 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。

エフェクトの調節

DAPモード（HALL 1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER 1/2）、MONO FILM（➡ *41* ページ）の動作中に、その効果の度合い（エフェクトレベル）を調節することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してDAPモードまたはMONO FILMを選ぶ

2 エフェクトボタンを押して調節する

エフェクトボタンを押すごとに数字が大きくなります。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなると効果は大きくなります。

- 設定された内容はそれぞれのモードごとに記憶されます。

センタートーンの調節

サラウンドモード、DSPモードの動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 センタートーンボタンを押す

センタートーンボタンを押すごとに、数字が大きくなります。

1 ····➡ 5 ➡ (始めに戻る)

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「1」から「5」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。

- センタースピーカーのサイズ設定を「NO」に設定しているときは、調節できません。(➡ ***27*** ページ)
- センタートーンが「3」以外のときに表示窓のC.TONE表示が点灯します。
- 設定された内容は、サラウンドモードではすべてのモードで共通に、DSPモードではそれぞれのモードごとに記憶されます。

ミッドナイトモードの設定

ダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を2段階に調節することができます。音量が小さいときでも バランスよく音声を楽しめます。

- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 ミッドナイトボタンを押す

ミッドナイトボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

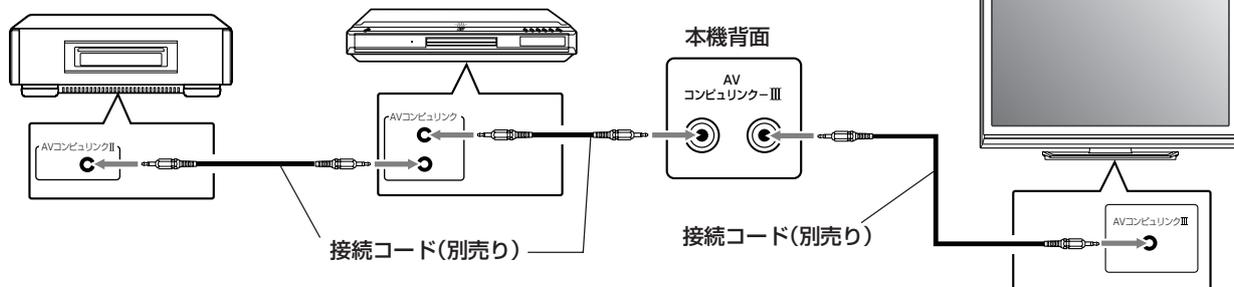
OFF ➡ 1 ➡ 2 ➡ (始めに戻る)

OFF	: ダイナミックレンジはそのままで、音声を楽しみたいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
1	: ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	: ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます。(夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます)

- ミッドナイトモードを使用しているとき、表示窓のMIDNIGHT表示が点灯します。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
ビクター製の各機器を別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。接続したビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

AVコンピュリンクの接続

ご注意

AVコンピュリンクでは、DBS入力端子に接続している地上デジタル/BS/CSチューナーを操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- DVDレコーダーのリモコンモードは、お買い上げ時の設定にしてください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDレコーダー/プレーヤーの自動再生

DVDレコーダー/プレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に「**入**」になり、ソース(音源)として「**DVR/DVD**」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に「**入**」になり、テレビの入力が適切なビデオ入力に切り換わります。

テレビの自動入力切り換え

- 本機のソース(音源)を「**DVR/DVD**」、「**VTR**」、「**DBS**」にすると、テレビの入力が自動的に以下のように切り換わります。
  - S映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ1**」に切り換わります。
  - 映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ2**」に切り換わります。(ただし、「**ビデオ2**」に 地上デジタル/BS/CSチューナーが接続されているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
  - D4入力端子またはコンポーネント映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。(テレビ側が対応している場合)
- 本機のソース(音源)を「**TV**」にすると、自動的にテレビ放送に切り換わります。
- ソース(音源)が「**USB**」のときは、この機能は働きません。

自動電源「入」⟷「切」

モニター出力端子、VTR入力(再生)端子やDVR/DVD入力(再生)端子に接続されているテレビ、ビデオデッキやDVDレコーダー/プレーヤーの電源が、本機の電源と連動して「**入**」⟷「**切**」します。

本機の電源を「入」にすると:

- 前回選択していたソース(音源)が「**DVR/DVD**」のときは、DVR/DVD入力(再生)端子に接続されているDVDレコーダー/プレーヤーとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース(音源)が「**VTR**」のときは、ビデオデッキとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース(音源)が「**DBS**」または「**TV**」のときは、テレビの電源のみが自動的に「**入**」になります。

本機の電源を「切」にすると:
DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、テレビの電源が自動的に「**切**」になります。

ご注意

- ビデオデッキで録画中に本機の電源を「**切**」にしても、ビデオデッキの電源は「**切**」にならず録画を続けます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、ビデオ機器と本機を接続している端子と同じ種類の端子を使って、本機とテレビを接続してください。
- 接続した端子にあわせて、映像接続の種類を正しく設定してください。(➡ ***33*** ページ)

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機のリモコンでビクター製のテレビやビデオ機器を操作することができます。

リモコンで操作する前に･･･

- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のSOURCE SELECTOR/MULTI JOGでソース（音源）を選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース（音源）機器選択ボタンを使って選んでください。

DVDレコーダー/プレーヤー

リモコンのモード切換スイッチを、DVDレコーダーを操作するときは「**DVR**」に、DVDプレーヤーを操作するときは「**DVD**」に合わせます。

- ビクター製のDVDレコーダーには、「**01**」から「**07**」の7種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製DVDレコーダーを操作する場合は、その機器に対応したリモコンモードを設定してください。設定方法は下記の「ビクター製DVDレコーダーのリモコンコードの設定方法」をご覧ください。

ビクター製DVDレコーダーのリモコンコードの設定方法

リモコンのモード切換スイッチを「**DVR**」に合わせます。

1. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押したまま･･･**
   DVR/DVDボタンを押したあと、数字ボタン（1～7、0）を使ってDVRコード番号を入力する
   例：リモコンコードを「01」に設定する場合
   DVR/DVD ➡ 0 ➡ 1 と押す
2. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを離す**
3. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押して設定を確認する**
   DVDレコーダーの電源を「**入**」⟷「**切**」できたら正しく設定されています。

- お買い上げ時は「**03**」に設定されています。
- 正しく動かない場合は、別のリモコンコードを使ってもう一度設定します。
- リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度リモコンコードを設定してください。

DVR/DVD ⏻/I：DVDレコーダー/プレーヤーの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

DVR/DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►：再生を始めます。
■：再生を停止します。
II：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
I◄◄：前または選択中のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。
►►I：次のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。
◄◄：チャプターまたはトラックを後へ戻します。
►►：チャプターまたはトラックを先へ進めます。
トップメニュー/メニュー
：DVDソフトのメニューを表示させます
カーソル（▲、▼、►、◄）、決定
：メニュー操作をします。

- **DVDプレーヤー操作用ボタン**
  1～10、0、+10：チャプターまたはトラックを選びます。
- **DVDレコーダー操作用ボタン**
  チャンネル（+/－）
  ：DVDレコーダーのチャンネルを変更します。
  1～9、0：チャプターまたはトラックを選びます。

- DVDレコーダー/プレーヤーによってはこれらの機能がお使いになれない場合があります。その場合にはDVDレコーダー/プレーヤーに付属のリモコンをお使いください。

テレビ

TV ⏻/I：テレビの電源を「**入**」⟷「**切**」します。
テレビ音量（+/－）：音量を調節します。
テレビ/ビデオ：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル（+/－）：チャンネルを変更します。
1～12：受信チャンネルを選びます。

- デジタルテレビは操作できません。

ビデオデッキ

- ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製ビデオデッキを操作する場合は、VTR入力（再生）端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。

VTR ⏻/I：ビデオデッキの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►：再生を始めます。
■：再生を停止します。
II：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは、►ボタンを押します。
◄◄：テープを巻き戻します。
►►：テープを早送りします。
チャンネル（+/－）：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを変更します。
1～9、0：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作することができます。
本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。
• 接続した機器の操作については、お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意
リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度リモコンコードを設定してください。

テレビ

1. TV ⏻/Iボタンを押したまま･･･
TVボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(テレビ)」をご覧ください。
例：お使いのテレビが松下製(23)のとき
TV ➡ 2 ➡ 3 と押す

2. TV ⏻/Iボタンを離す

3. TV ⏻/Iボタンを押して設定を確認する
テレビの電源を「入」⟺「切」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

• デジタルテレビは、本機のリモコンで操作できません。

テレビを操作するボタン

TV ⏻/I ：テレビの電源を「入」⟺「切」します。
テレビ音量(+/−) ：テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ ：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。
チャンネル(+/−) ：テレビの受信チャンネルを変更します。
1〜12 ：テレビの受信チャンネルを選びます。

<メーカーコード番号一覧(テレビ)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01、02、03
アイワ	28、29
NEC	15
コルティナ	31、32、33、34
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08、35、36
ソニー	11、12、13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27

[お買い上げ時の設定：01]

ビデオデッキ

1. VTR ⏻/Iボタンを押したまま･･･
VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)」をご覧ください。
例：お使いのビデオデッキが松下製(24)のとき
VTR ➡ 2 ➡ 4 と押す

2. VTR ⏻/Iボタンを離す

3. VTR ⏻/Iボタンを押して設定を確認する
ビデオデッキの電源を「入」⟺「切」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

ビデオデッキを操作するボタン

VTR ⏻/I ：ビデオデッキの電源を「入」⟺「切」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。
► ：再生を始めます。
■ ：再生を停止します。
II ：再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
◄◄ ：テープを巻き戻します。
►► ：テープを早送りします。
チャンネル(+/−) ：チャンネルを変更します。

<メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01、02、03
アイワ	30、31、32、33、34
NEC	16、17、18、19
コルティナ	36
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29

[お買い上げ時の設定：01]

DVDプレーヤー

リモコンのモード切換スイッチを「**DVD**」に合わせます。

1. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押したまま・・・**
   DVR/DVDボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
   各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)」をご覧ください。
   例: お使いのDVDプレーヤーが松下製(06)のとき
   DVR/DVD ➡ 0 ➡ 6 と押す
2. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを離す**
3. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押して設定を確認する**
   DVDプレーヤーの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。
   正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

DVDプレーヤーを操作するボタン

DVR/DVD ⏻/I
: DVDプレーヤーの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

DVR/DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►	:再生を始めます。
■	:再生を停止します。
❚❚	:再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
❘◄◄	:前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
►►❘	:次のチャプターの頭へスキップします。
◄◄	:チャプターを後へ戻します。
►►	:チャプターを先へ進めます。

トップメニュー、メニュー
: DVDソフトのメニューを表示させます。

カーソル(▲、▼、►、◄)、決定
: メニュー操作をします。

1〜10、0、+10
: チャプターまたはトラックを選びます。

<メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01
オンキョー	10、11
ケンウッド	08
サムスン	12
ソニー	02
東芝	03
パイオニア	04
日立	14
フィリップス	15
松下	06
三菱	09
ヤマハ	13

[お買い上げ時の設定:01]

CS/CATVチューナー

1. **CS/CATV ⏻/Iボタンを押したまま・・・**
   DBSボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
   各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(CS/CATV)」をご覧ください。
   例: お使いのCS/CATVチューナーが松下製(11)のとき
   VTR ➡ 1 ➡ 1 と押す
2. **CS/CATV ⏻/Iボタンを離す**
3. **CS/CATV ⏻/Iボタンを押して設定を確認する**
   CS/CATVチューナーの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。
   正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

CS/CATVチューナーを操作するボタン

CS/CATV ⏻/I :CS/CATVチューナーの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

DBSボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−) :受信チャンネルを変更します。
1〜9 、0、選局 :受信チャンネルを選びます。

<メーカーコード番号一覧(CS/CATVチューナー)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01、02、11
愛知電子	21
アイワ	14、15 、16
NEC	08
サイエンティフィック·アトランタ	17
シャープ	03
住友電工	09、19、20
ソニー	05
東芝	06、07
パイオニア	09
日立	10
ヒューマックス	18
富士通ゼネラル	04、09
ブロードネットマックス	09
マスプロ	17
松下	11、12、13

[お買い上げ時の設定:01]

故障かな?と思う前に

修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ **54** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ **22** ページ)
電源「**入**」時にスタンバイランプが点灯し、すぐ電源が「**切**」になる。	大音量のために本機に過負荷がかかっている。	1. 再生中のソース(音源)機器を止める。 2. 本機の電源を「**入**」にして音量を調節する。
	スピーカーコードがショート(短絡)したために本機に過負荷がかかっている。	電源コードを抜き、スピーカーの接続を確認する。スピーカーコードがショート(短絡)していないときは販売店に問い合わせる。
	本機に異常な電圧がかかっている。	電源コードを抜き、販売店に問い合わせる。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが正しく操作できない。	リモコンが正しく設定されていない。	ソース(音源)機器選択ボタンを押す。
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。障害物がある。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。(➡ **18** ページ)
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ **18** ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ **18** ページ)
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
機器が操作できない。	モード切換スイッチの位置を操作する機器に合わせていない。	モード切換スイッチを正しい位置に合わせる。
	入力したコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力する。 (➡ **50**、**51** ページ)
	ソース(音源)機器選択ボタンを押していない。	操作したい機器のソース(音源)機器選択ボタンを押してから、操作する。

映像について

症 状	原 因	処 置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ ***13***〜***17*** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	ソース(音源)機器をD4映像入力端子に、テレビを映像出力端子またはS映像出力端子に接続している。	ソース(音源)機器とテレビの映像接続の端子をあわせる。 または、ビデオコンバート(変換)機能(➡***12*** ページ)が映像信号を変換できる範囲で、ソース(音源)機器とテレビを接続する。
	ソース(音源)機器をS映像入力端子に、テレビを映像出力端子に接続している。	
ソース(音源)がVTRまたはDBSのとき。	映像接続の種類が正しく選ばれていない。	接続にあわせて、映像接続の種類を正しく設定する。(➡***33*** ページ)

音声について

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ ***11*** ページ)
	オーディオコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ ***12***〜***17*** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**ボタンを押して消音機能を解除する。(➡ ***22*** ページ)
	アナログ/デジタル音声入力が正しく選ばれていない。	正しい設定を選ぶ。(➡ ***23*** ページ)
ソース(音源)がUSBのとき。	USBケーブルを正しく接続していない。	正しく接続をする。(➡ ***19*** ページ)
	パソコンが本機を認識していない。	接続を確認する。(➡ ***19*** ページ)
	再生ソフトが本機に対応していない。	他のソフトに交換する。
	パソコンの「規定のデバイス」の項目が「USBオーディオ デバイス」に設定されていない。	[スタート]→[コントロール パネル]→[サウンドとオーディオ デバイス]→[オーディオ]を開き、「音の再生」の「規定のデバイス」の項目を「USBオーディオ デバイス」に設定する。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。(➡ ***11*** ページ)

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

52、53 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	AUDIO/VIDEO コントロールアンプ
型　　名	AX-D311
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社（以下、当社）にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  ① 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  ② 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	釧路市松浦町3-3
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	盛岡市津志田西2-3-20
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	奥州市水沢区天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第2棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043)202-0263	千葉市中央区中央3-9-16 三井生命千葉中央ビル1F
	柏 S.C.	(04)7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)5748-3701	大田区池上2-8-10 プラムビル1F
	八王子 S.C.	(042)646-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03)5631-2235	墨田区八広5-11-1
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048)654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045)651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	相模原 S.C.	(042)776-2052	相模原市古淵3-7-4
	海老名 S.C.	(046)234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	長岡市下々条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	静岡市駿河区中田本町62-31 中田ビル1F
	沼津 S.S.	(055)922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	北名古屋市九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(059)352-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.S.	(076)425-2397	富山市二口町4-1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	金沢市新保本4-65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075)644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.S.	(0742)35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072)254-2881	堺市北区百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06)6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739)22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078)252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084)931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	山口市小郡花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	周南市野上町2-35
島根	松江 S.C.	(0852)31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	鳥取 S.S.	(0857)23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088)622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡 佐賀	福岡 S.C.	(092)431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0406

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

主な仕様

• 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

項目		接続	入力感度／インピーダンス
映像入力端子			
	映像（コンポジット）	DVR/DVD、VTR、DBS	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR/DVD、VTR、DBS	
		Y	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C	：0.286 V(p-p)/75Ω
	D4映像	DVR/DVD、VTR(DBS)	
		Y	：1.0V(p-p)/75Ω
		P_B、P_R	：0.7V(p-p)/75Ω

項目		接続	出力レベル／インピーダンス
映像出力端子			
	映像（コンポジット）	DVR、VTR、モニター	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR、VTR、モニター	
		Y	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C	：0.286V(p-p)/75Ω
	D4映像	モニター	
		Y	：1.0V(p-p)/75Ω
		P_B、P_R	：0.7V(p-p)/75Ω

定格出力　**ステレオ時**（JEITA）
- **フロント出力**　110W/ch（6Ω、20Hz〜20kHz、0.8%THD）

サラウンド時（JEITA）
- **フロント出力**　110W/ch（6Ω、1kHz、0.8%THD）
- **センター出力**　110W（6Ω、1kHz、0.8%THD）
- **サラウンド出力**　110W/ch（6Ω、1kHz、0.8%THD）
- **サラウンドバック出力**　110W/ch（6Ω、1kHz、0.8%THD）

項目		接続	入力感度／インピーダンス
音声入力端子			
	アナログ入力	DVR/DVD、VTR、DBS、TV	：300mV/47kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1（DVR/DVD）	：0.5V(p-p)/75Ω
		光デジタル2（DBS）/3（VTR）	：−21dBm 〜 −15dBm
		USB	
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応）	

項目		接続	出力レベル
音声出力端子			
	アナログ出力	DVR（録音）、VTR（録音）	：300mV
		サブウーハー	
		ヘッドホン（ø3.5）	

項目	内容	値
その他の端子	AVコンピュリンク-Ⅲ（×2）	
S/N比（JEITA）	DVR/DVD、VTR、DBS、TV	：70dB
周波数特性	DVR/DVD、VTR、DBS、TV	：20Hz〜20kHz（±1dB）

その他
- **スリープタイマー**　10、20、30、40、50、60、70、80、90分
- **電　源**　AC 100V、50Hz/60Hz共用
- **消費電力**　電源「入」時　175W
  電源「切（待機）」時　0.8W
- **最大外形寸法（幅×高さ×奥行）**　435mm×91.5mm×360mm
- **質　量**　約6.6kg

• JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定方法による数値です。
• 付属品については***2*** ページをご覧ください。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

別売りのオプション品

• オーディオコード	: CN-510E(ピンプラグ×2～ピンプラグ×2)(1m)
	: CN-168G(ピンプラグ×2～ピンプラグ×4)(1.5m)
• ビデオコード	: VX-110E (1m)
• Sビデオコード	: VC-S110E(1m)
• D端子コード	: VX-DS110(Dプラグ～Dプラグ)(1m)
	: VX-DS210(Dプラグ～ピンプラグ×3)(1m)
• 同軸デジタルコード	: CN-D110E(1m)
• 光デジタルケーブル	: XN-110SA(1m)
• USBケーブル	: VX-U110 (1m)
• 接続コード	: CN-120A(1.5m)

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
(品番は変更されることがあります)

アンケートおよびユーザー登録のお願い

このたびは、ビクター商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
今後のよりよい商品の開発に反映させるために、アンケートおよびユーザー登録にご協力をお願いいたします。

● 下記アドレスのホームページより、ご回答ください。
http://www.victor.co.jp/reg/audio/

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
55ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話 (045) 450−8950 FAX (045) 450−2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp/

● ご相談窓口におけるお客さまの個人情報のお取り扱いについては、54ページをご覧ください。

日本ビクター株式会社
〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0606AHMMDWJEIN